



エレクトロニックアコースティック
ドラムモジュール

EAD10

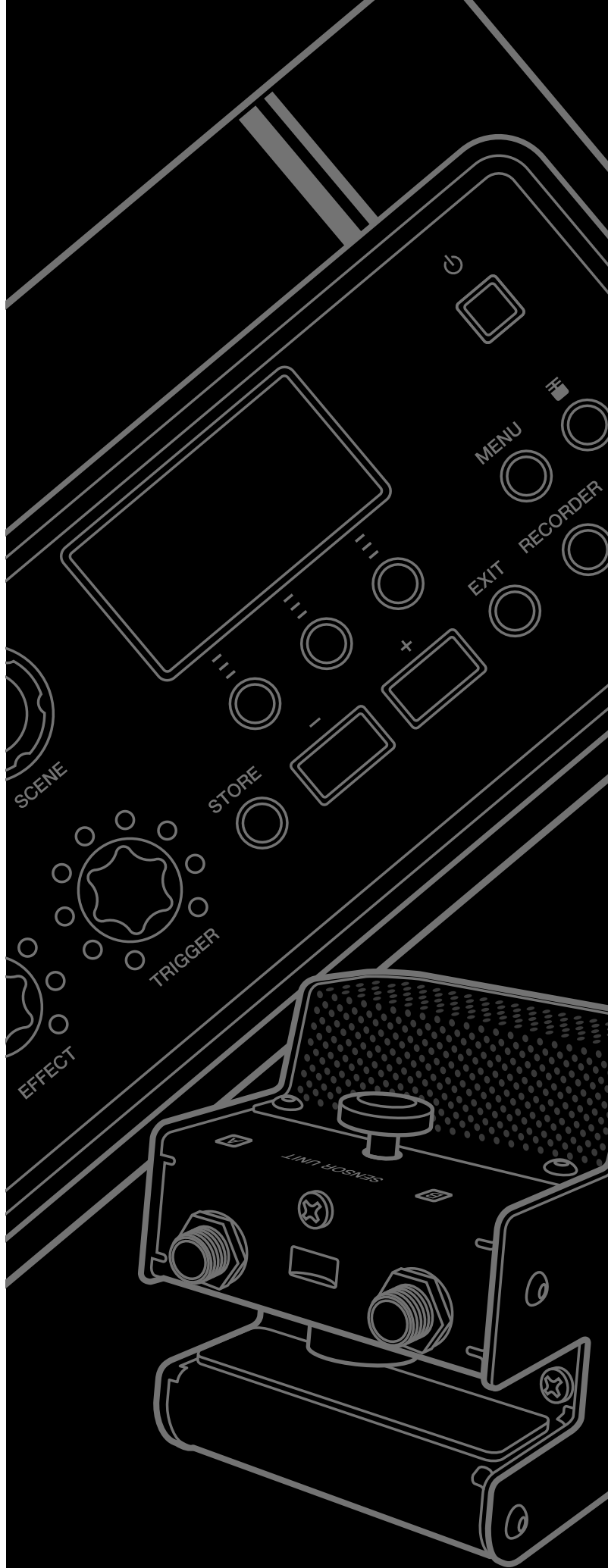
取扱説明書

クイックガイド

6ページ

EAD10の特長

10ページ



安全上のご注意




ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



警告

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

電源アダプターについて



警告



禁止

ヤマハ製電子楽器以外に使用しない。
電源アダプターは、ヤマハ製電子楽器専用です。他の用途には、ご使用にならないでください。故障、発熱、火災などの原因になります。



禁止

電源アダプターは、室内専用のため屋外及び水滴のかかる環境では、使用しない。また、水の入った物、花瓶などを機器の上に置かない。
内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。



注意



必ず実行

製品は電源コンセントの近くに設置する。
電源プラグに容易に手が届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに製品の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

EAD10について

警告

電源/電源アダプター



電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

禁止 電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



電源は必ず交流100Vを使用する。
エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。

必ず実行



電源アダプターは、必ず指定のもの(63ページ)を使用する。

異なった電源アダプターを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。

必ず実行



電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

感電やショートのおそれがあります。

必ず実行

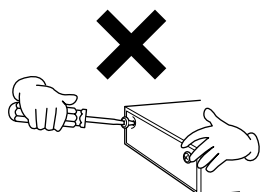
分解禁止



この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。

禁止



水に注意



本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

禁止 内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。感電のおそれがあります。

禁止

火に注意



本体の上でろうそくなど火気のあるものを置かない。

ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

禁止

異常に気づいたら



下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

必ず実行

- ・電源コード/プラグがいたんだ場合
- ・製品から異常なおいや煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

⚠ 注意

電源 / 電源アダプター



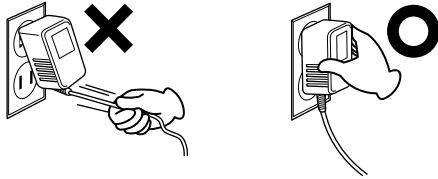
たこ足配線をしない。
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。

禁止



電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。

必ず実行



長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電や火災、故障の原因になることがあります。

必ず実行

組み立て



本書の組み立て方の説明をよく読み、手順どおりに組み立てる。
手順どおりに正しく組み立てないと、楽器が破損したりお客様がけがをしたりする原因になります。

必ず実行

設置



不安定な場所に置かない。
本体が転倒して故障したり、お客様やほかの方がけがをしたりする原因になります。

禁止



本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。
コードをいためたり、お客様やほかの方が転倒したりするおそれがあります。

必ず実行



この製品を電源コンセントの近くに設置する。
電源プラグに容易に手が届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

必ず実行



必ず実行

ハイハットスタンドなどに取り付ける場合は、付属のモジュールホルダーを使用する。また、必ず付属のモジュールホルダー用蝶ボルトを使用する。

本体が転倒し破損したり、内部の部品を傷つけたりする原因になります。



必ず実行

この製品を設置される際、固定ネジやモジュールホルダー用蝶ボルトはしっかり締め付ける。また、固定ネジまたはモジュールホルダー用蝶ボルトをゆるめる際は急激にゆるめない。

メインユニットやセンサーユニット、モジュールホルダーなどの部品の落下などにより、けがの原因となります。



禁止

この製品を設置される際、接続ケーブルなどの引き直しにはじゅうぶん注意する。

足を掛けて転倒するなど、けがの原因となります。

接続



必ず実行

すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小にする。

感電、聴力障害または機器の損傷の原因になります。



必ず実行

演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。

聴力障害または機器の損傷の原因になります。

取り扱い



禁止

本体の上ののったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

本体が破損したり、お客様やほかの方がけがをしたりする原因になります。



禁止

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。

聴覚障害の原因になります。



- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを切った状態(画面表示が消えている)でも微電流が流れています。[⏻](スタンバイ/オン)スイッチが切れているときの消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

注記(ご使用上の注意)

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

■ 製品の取り扱いに関する注意

- この製品の上に乗ったり、重いものを乗せたりしないでください。故障の原因になります。
- テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。iPad、iPhone、iPod touchのアプリケーションと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるためiPad、iPhone、iPod touchの機内モードをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。
- 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります。
- 本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。

■ 製品のお手入れに関する注意

- 手入れするときは、乾いた柔らかい布、または水を固くしぼった柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナー、アルコール、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色/変質する原因になりますので、使用しないでください。

■ データの保存に関する注意

- この機器のシステム設定(リファレンスマニュアル(詳細編)(PDF))は自動的に保存され、電源を切っても消えません。ただし保存された設定は故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、USBフラッシュメモリー/コンピューターなどの外部機器に保存してください(25ページ、30ページ)。USBフラッシュメモリーを使う前には、必ず30ページをお読みください。
- 編集したシーンなどは、保存前に電源を切ると消えてしまいます。オートパワーオフ機能(29ページ)により電源が切れた場合も同様です。保存しておきたいデータは、本体またはUSBフラッシュメモリー/コンピューターなどの外部機器に保存してください(25ページ、30ページ)。ただし、本体に保存したデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、USBフラッシュメモリー/コンピューターなどの外部機器に保存してください(25ページ、30ページ)。USBフラッシュメモリーを使う前には、必ず30ページをお読みください。
- 保存したUSBフラッシュメモリーの万一の事故に備えて、大切なデータは予備のUSBフラッシュメモリー/コンピューターなどの外部機器にバックアップとして保存されることをおすすめします。

この製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

お知らせ

■ データの著作権に関するお願い

- ヤマハ(株)および第三者から販売もしくは提供されている音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- この製品に内蔵または同梱されたコンテンツは、ヤマハ(株)が著作権を有する、またはヤマハ(株)が第三者から使用許諾を受けている著作物です。製品に内蔵または同梱されたコンテンツそのものを取り出し、もしくは酷似した形態で記録/録音して配布することについては、著作権法等に基づき、許されていません。
 - ※ 上記コンテンツとは、コンピュータープログラム、伴奏スタイルデータ、MIDIデータ、WAVEデータ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどを含みます。
 - ※ 上記コンテンツを使用して音楽制作や演奏を行ない、それらを録音や配布することについては、ヤマハ(株)の許諾は必要ありません。

■ 取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- MacOS、iPhone、iPadは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。
- [](かぎっこ)は、パネル上にあるボタン類や端子を示します。

■ バージョンアップについて

ヤマハ製品では、機能や操作性向上のために、不定期に製品本体のファームウェアをアップデートすることがあります。ドラム製品の最新バージョンについては、以下のウェブサイトを確認、ダウンロードできます。

お使いのEAD10につきましても、本体ファームウェアを最新バージョンにアップデートされることを推奨します。

<http://download.yamaha.com/jp/>

なおこの取扱説明書では、本書制作時のバージョンで説明しております。

お使いのEAD10のバージョンの確認方法やその機能/操作についても、上記ページでご確認いただけますようお願いいたします。

■ パッドについて

この取扱説明書では、本機に接続できるパッドの品番を掲載していますが、これらは本書制作時点での最新品番です。その後発売された最新品番については、下記のウェブサイトでご確認いただけますよう、お願いいたします。

<http://download.yamaha.com/jp/>

※ ウェブサイトのURLは予告無く変更することがあります。

機種名(品番)、製造番号(シリアルナンバー)、電源条件などの情報は、製品の底面にある銘板または銘板付近に表示されています。製品を紛失した場合などでもご自身のものを特定していただけるよう、機種名と製造番号については以下の欄にご記入のうえ、大切に保管していただくことをお勧めします。

機種名

製造番号

(bottom_ja_02)

クイックガイド

音量や音のバランスを調整したい

(13ページ)



1. [MASTER VOLUME]ノブまたは[AUDIO/CLICK VOLUME]ノブを回します。



MASTER
全体の音量

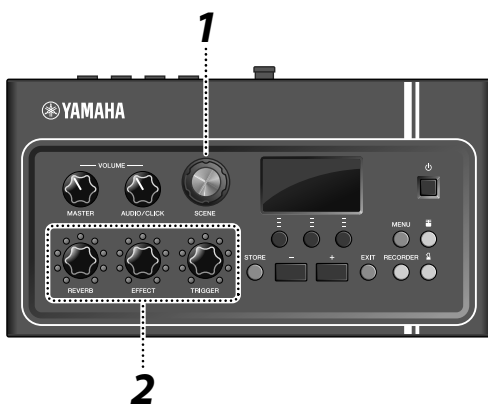


AUDIO/CLICK
自分の演奏音以外
(外部入力やメトロノーム)の音量

ドラムセットのすべての楽器を叩いて確認してください。

音色を変えたい

(33ページ)



1. [SCENE]ノブを回して、全体の音色(シーン)を切り替えます。
2. [REVERB]ノブ、[EFFECT]ノブ、[TRIGGER]ノブで調節します。



REVERB
残響の
かかり具合



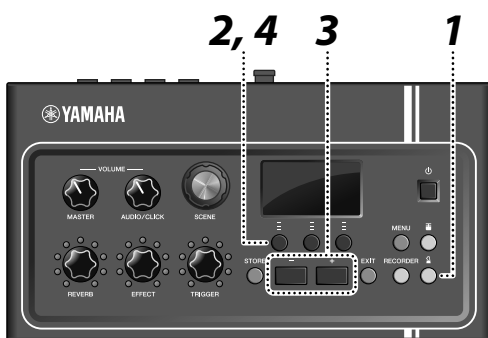
EFFECT
エフェクトの
かかり具合



TRIGGER
トリガー音色の音量
(初期状態ではバス
ドラムに足す音)

メトロノーム(クリック)に合わせて練習したい

(39ページ)



1. [METRONOME] (クリック) ボタンを押します。
2. 「[METRONOME]」 の下のボタンを押して、メトロノームをスタートします。

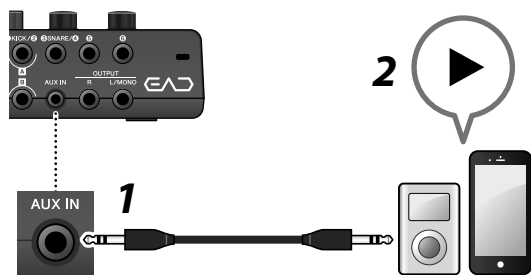


3. [+]ボタンや[-]ボタンでテンポを調節します。
4. メトロノームを止めるには、「[METRONOME]」 の下のボタンを押します。



好きな曲に合わせて叩きたい

(24ページ)

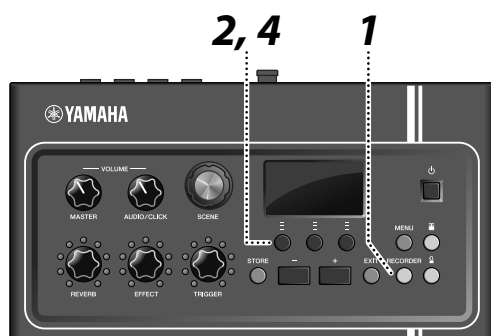


1. 本体の[AUX IN]端子に携帯用音楽プレーヤーを接続します。
2. 携帯用音楽プレーヤーで曲を再生します。
3. ヘッドフォンで聴きながらドラムを叩きます。

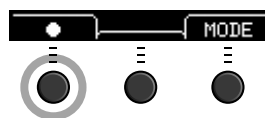


自分の演奏を録音したい

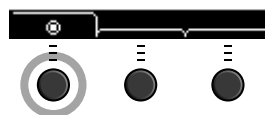
(41ページ)



1. [RECORDER]ボタンを押します。
2. 録音を始めるには「●」の下のボタンを押します。



3. 演奏します。
4. 録音を止めるには、「◎」の下のボタンを押します。



目次

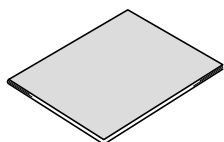
安全上のご注意	2
クイックガイド	6
付属品(お確かめください)	9
EAD10の特長	10
EAD10で音が出るしくみ	11
取扱説明書について	12
冊子マニュアル	12
電子マニュアル(PDF形式)	12
各部の名称とはたらき	13
メインユニット	13
センサーユニット	15
トリガー入力端子について	16
準備編	17
設置	17
他の機器と接続して楽しみを広げる	24
電源を入れる、切る	25
センサーユニットの初期設定を行なう	27
全体の設定を変える	29
USBフラッシュメモリの取り扱い	30
基本編	32
いろいろなシーンを使って演奏する	32
自分だけのシーンを作る	35
クリック(メトロノーム)を使う	39
自分の演奏を録音する	41
応用編	48
別売品でドラムセットの機能を拡張する	48
資料	55
メニュー一覧	55
困ったときは	58
メッセージ一覧	61
仕様	63
索引	64
保証とアフターサービス	66

はじめに

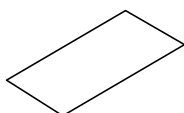
このたびは、ヤマハ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本機に搭載された機能を十分に活かし、演奏をお楽しみいただくため、本書をよくお読みになってからご使用ください。
また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管していただきますようお願いいたします。

付属品(お確かめください)

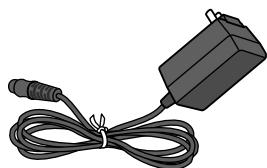
取扱説明書(本書)



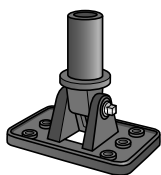
保証書



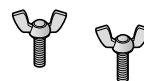
電源アダプター



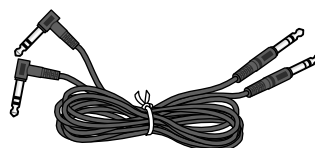
モジュールホルダー



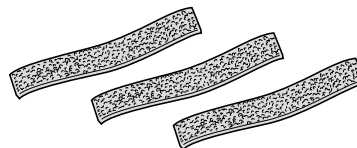
モジュールホルダー用蝶ボルト(2個)



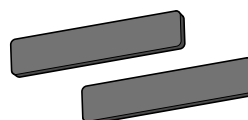
接続ケーブル(1組)



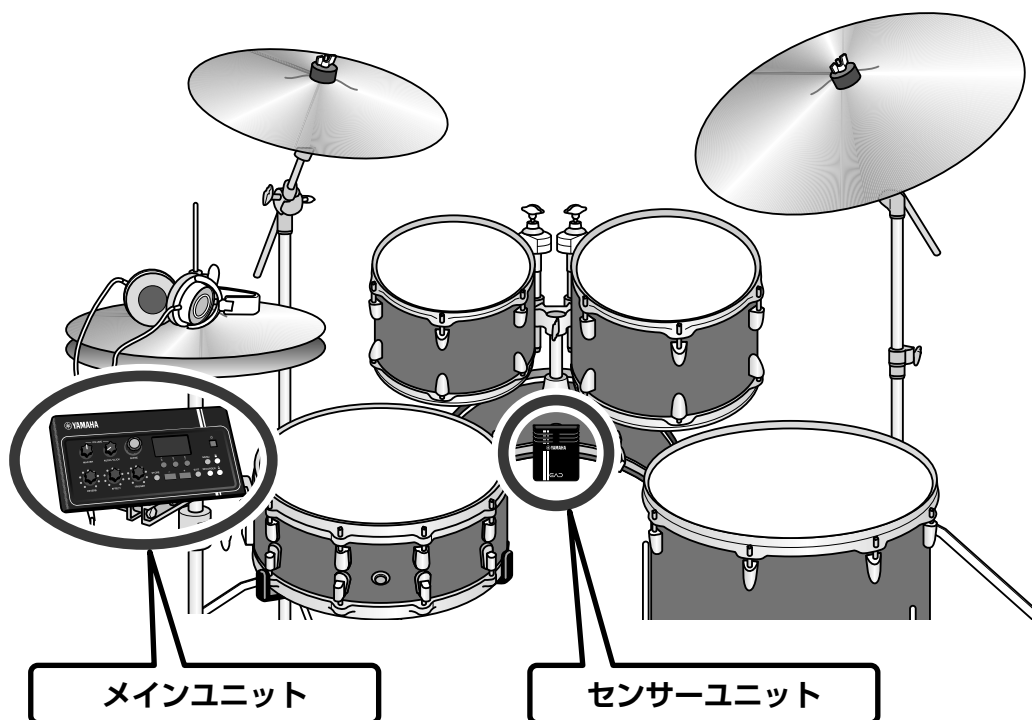
ケーブルバンド(3本)



クッション材シール(2枚)



EAD10の特長



EAD10を使うと、アコースティックドラムの音を簡単にお好みのサウンドに変えられます。スマートフォンなどで好きな音楽を聞きながら、快適にドラム演奏を楽しめます。また、練習や録音、ライブのシチュエーションなど幅広くご利用いただけます。

簡単なセッティングで、自分が演奏するドラムの音を快適にモニターできる

- センサーユニットをバスドラムに取り付けるだけのシンプルなセッティング
- XY配置の内蔵ステレオマイクで、ドラムセット全体を自然なバランスと定位で高品質にモニター
- 大音量のドラム演奏音を、ヘッドフォンまたはイヤフォンを使って適切な音量でモニター

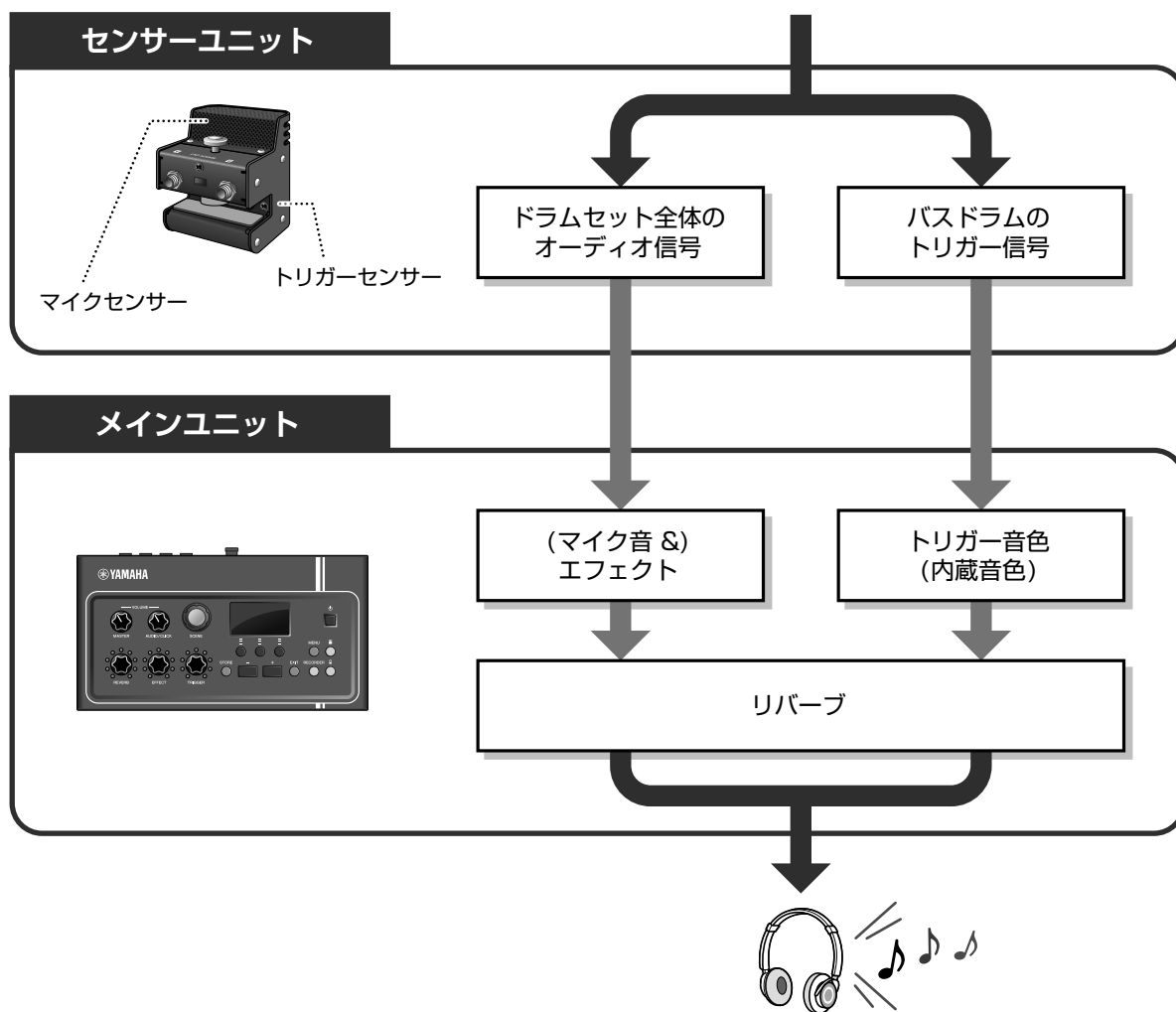
自分が演奏するドラムの音を好みの音色に変えることができる

- ノブ1つでエフェクトのセッティングを切り替えることができ、設定保存や呼び出しも簡単
- 楽曲中で重要かつ調整の難しいキック音を、PCM音源で簡単に強調
- コンテンポラリーから最新トレンドミュージックまで幅広い音楽ジャンルを演奏可能

録音やライブ現場でも活用できる

- USBフラッシュメモリーやUSBオーディオ経由で録音再生可能
- 2ミックス出力でPAも可能

■EAD10で音が出るしくみ



本機では、センサーユニットのマイクセンサーで取り込んだ「オーディオ信号」とトリガーセンサーで取り込んだ「トリガー信号」の2種類の信号をメインユニットに送信して処理を行います。オーディオ信号は、お好みのエフェクトをかけることで音を加工できます。トリガー信号ではドラムを叩くタイミングや強さに応じてトリガー音色を鳴らすことができます。

「トリガー音色」、「エフェクト」、「リバーブ」については「シーンとは」(32ページ)をご覧ください。

取扱説明書について

本機には、以下の説明書が用意されています。これらの説明書は、本機のユーザーを対象に作られています。

冊子マニュアル



取扱説明書(本書)

準備編 本機の取り付けかたや音を出すまでの準備について説明しています。

基本編 本機の基本的な使いかたについて説明しています。

応用編 本機をより詳細に使いこなす方法について説明しています。

資料 困ったときの解決方法をはじめ、各種資料を掲載しています。

電子マニュアル(PDF形式)



リファレンスマニュアル(詳細編)

[MENU](メニュー)ボタンを押すと表示される、すべての機能について説明しています。



データリスト

本機に搭載されたシーン名やエフェクト名などの一覧とMIDIに関する資料を掲載しています。



iPhone/iPad接続マニュアル

本機をiPhoneやiPadなどのスマートデバイスと接続する方法を説明しています。

電子マニュアルは、ヤマハ ダウンロードのウェブサイトからご覧いただけます。インターネットに接続して以下のウェブサイトを開き、「モデル名から検索」テキストボックスにモデル名「EAD10」などを入力して「検索」をクリックします。

ヤマハ ダウンロード <http://download.yamaha.com/jp/>


各部の名称とはたらき

メインユニット

トップパネル

[SCENE](シーン)ノブ (33ページ)
全体の音色を切り替えます。または、他の画面からシーン画面へ戻ります。


NOTE
[-]ボタン、[+]ボタンと同じ用途でノブを使うこともできます。詳しくはリファレンスマニュアル(詳細編)(PDF)(MENU/Utility/General)をご参照ください。

[](スタンバイ/オン)スイッチ (25ページ)
電源のスタンバイ(オフ)とオンを切り替えます。

[MENU](メニュー)ボタン
詳細設定の画面を開きます。詳しくはリファレンスマニュアル(詳細編)(PDF)をご参照ください。

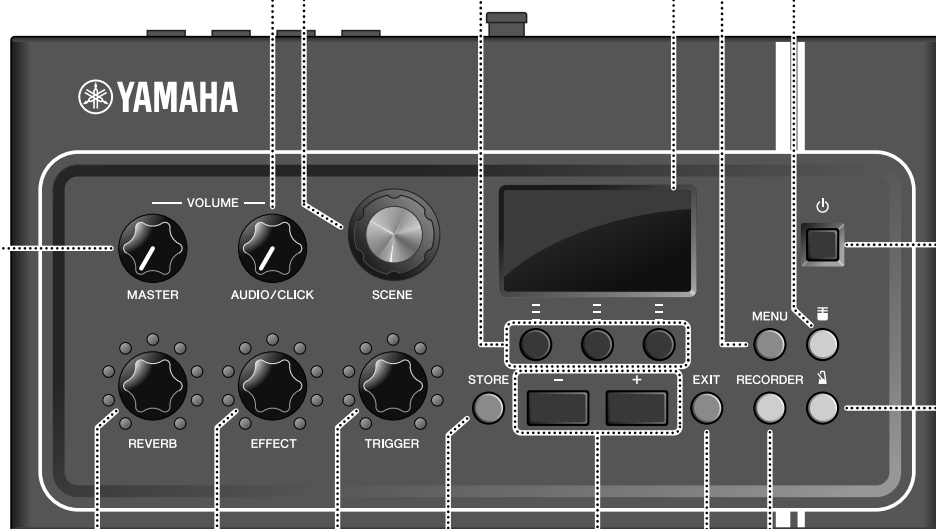
[MASTER VOLUME](マスターボリューム)ノブ
全体の音量を調節します。

液晶ディスプレイ (表示画面) (33ページ)
さまざまな情報が表示されます。

[](センサーユニット) ボタン (27ページ)
センサーユニットの画面を開きます。マイクセンサーの設定は、ドラムを強く叩いたときに時々ボタンが点灯する音量レベルに合わせておくようにします。


[AUDIO/CLICK VOLUME](オーディオ/クリックボリューム)ノブ
自分の演奏音以外(外部入力やクリックなど)の音量を調節します。

ファンクション1~3ボタン (33ページ)
([F1]、[F2]、[F3])
各画面下部に表示された機能を選ぶときに使います。



[REVERB](リバーブ)ノブ (33ページ)
残響の量を調節します。

**[-]ボタン、
[+]ボタン**
値を1ずつ増やしたり減らしたりします。

[](クリック)ボタン (39ページ)
クリック(メトロノーム)の画面を開きます。クリックのテンポに合わせてボタンが点滅します。

[EFFECT](エフェクト)ノブ (33ページ)
マイクセンサーで取り込んだ音にかかるエフェクトのかけ具合を調節します。

[RECORDER](レコーダー)ボタン (41ページ)
レコーダー(録音・再生)の画面を開きます。レコーダーで録音中または再生中はボタンが点灯します。

[TRIGGER](トリガー)ノブ (33ページ)
トリガー音色の音量を調節します。

[STORE](ストア)ボタン (37ページ)
ストア画面を開きます。自分で作ったシーンを保存します。

[EXIT](エグジット)ボタン
実行をキャンセルしたり、1つ上の階層の画面へ戻ったりするときに使います。数回押すとシーン画面に戻ります。

NOTE
シーン画面のときには、シーンの音を止めたいときにもこのボタンを押します。

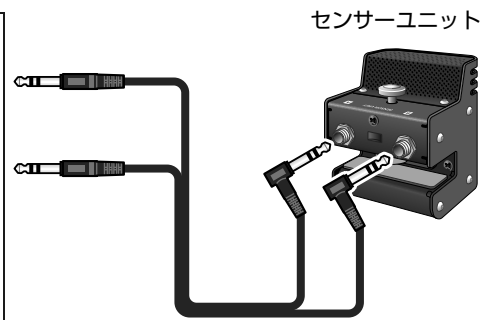
リアパネル

[FOOT SW] 端子 (48ページ)
ペダル (別売) を接続します。

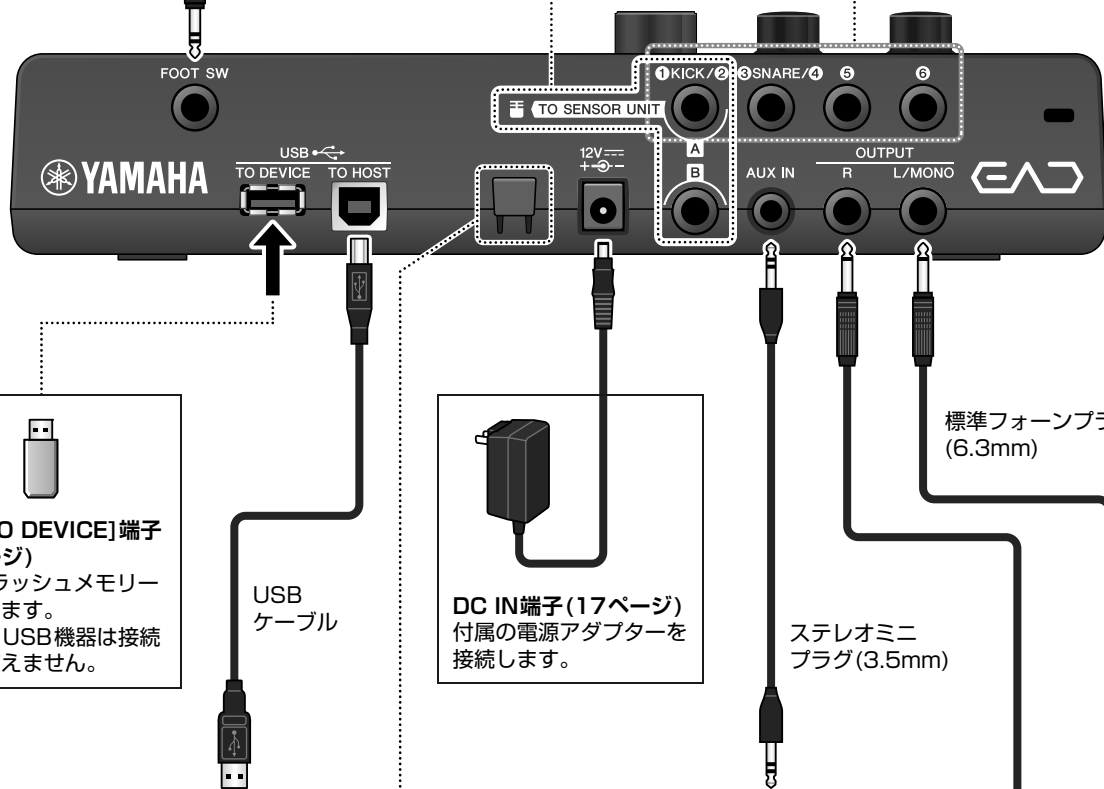
FC5 FC7 HH65
など

[TO SENSOR UNIT A]
(センサーユニット用A) 端子
(17ページ)
付属のケーブルでセンサーユニットのA端子と接続します。

[TO SENSOR UNIT B]
(センサーユニット用B) 端子
センサーユニットのB端子と接続します。



[①KICK/②] 端子から **[⑥]** 端子については「トリガー入力端子について」(16ページ) をご覧ください。



[USB TO DEVICE] 端子 (30ページ)
USBフラッシュメモリーを接続します。その他のUSB機器は接続しても使えません。

DC IN 端子 (17ページ)
付属の電源アダプターを接続します。

標準フォンプラグ (6.3mm)

ステレオミニプラグ (3.5mm)

[USB TO HOST] 端子 (25ページ)
コンピューターやiPhone、iPadなどのスマートデバイスと接続して、デジタル信号 (オーディオやMIDI) の送受信をします。
iPhoneやiPadを接続する場合は接続用のパーツが必要です。詳しくは電子マニュアル「iPhone/iPad接続マニュアル」(PDF) をご参照ください。

コードフック (17ページ)
電源アダプターのコードが抜けないように、このフックでプラグ付近のコードを引っ掛けて固定します。

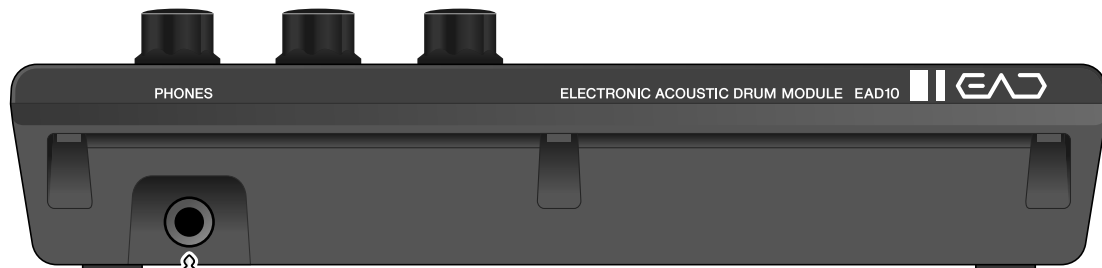
コードフック

電源アダプターのコード

[AUX IN] (外部入力) 端子 (17ページ)
スマートフォンや携帯音楽プレーヤーなどのヘッドフォン端子と接続します。

OUTPUT [R]/[L/MONO] 端子 (17ページ)
パワードスピーカーなどのPAシステムと接続します。標準フォンタイプの出力端子です。モノラル出力したい場合は、[L/MONO] 端子だけに接続します。

フロントパネル



ステレオ標準フォンプラグ
(6.3mm)



[PHONES](ヘッドフォン)端子
ヘッドフォンを接続します。ステレオ標準フォンタイプ(6.3mm)の出力端子です。ステレオミニフォンタイプ(3.5mm)のイヤホンやヘッドフォンを[PHONES]端子に接続する場合、3.5mm ⇄ 6.3mm変換コネクタをお使いください。

⚠ 注意

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

センサーユニット

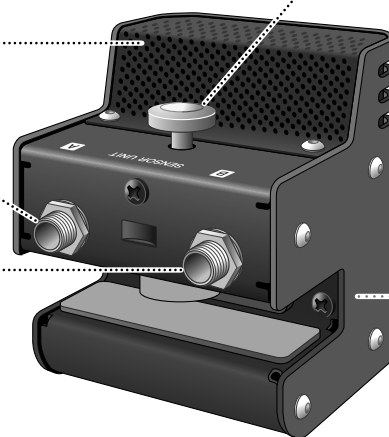
注記

センサーユニットはドラムスティックで叩かないでください。マイクセンサーが破損したり、性能が落ちる可能性があります。

マイクセンサー
ドラムセットの音を集めてオーディオ信号に変換します。

A端子
付属の接続ケーブルで、リアパネルの[TO SENSOR UNIT A]端子と接続します。トリガーセンサーの信号を送信します。

B端子
付属の接続ケーブルで、リアパネルの[TO SENSOR UNIT B]端子と接続します。マイクセンサーの信号を送信します。



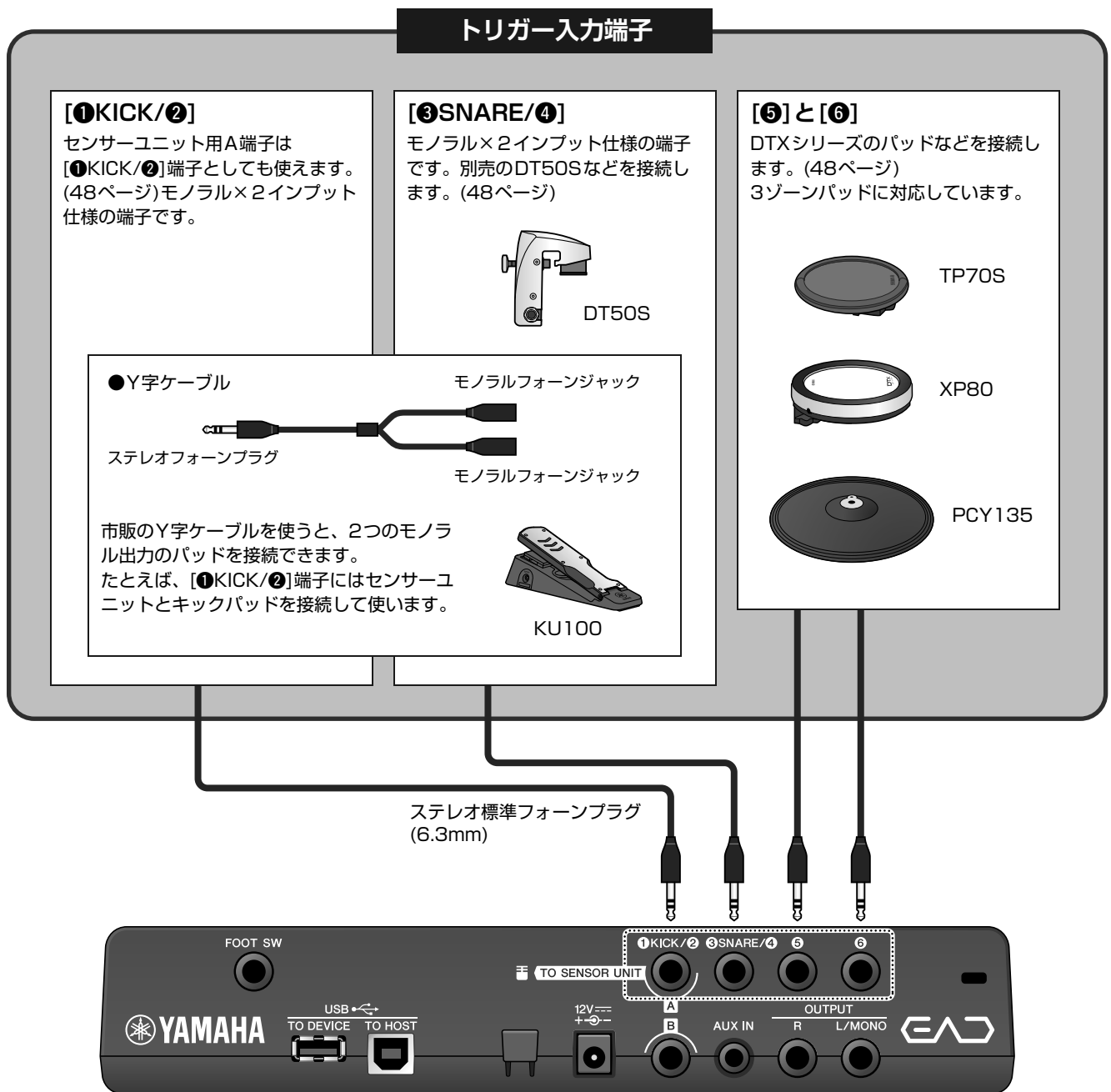
固定ネジ(17ページ)
センサーユニットをバスドラムのフープに固定します。

トリガーセンサー
バスドラムを叩いたときに起こる振動をトリガー信号に変換します。

トリガー入力端子について

トリガー入力端子とは、トリガー信号を入力するための端子です。別売品を接続して使います。最大6つのパッドまたはドラムトリガーを接続できます。

本機では、メインユニットリアパネルの[①KICK/②]端子～[⑥]端子のことをいいます。



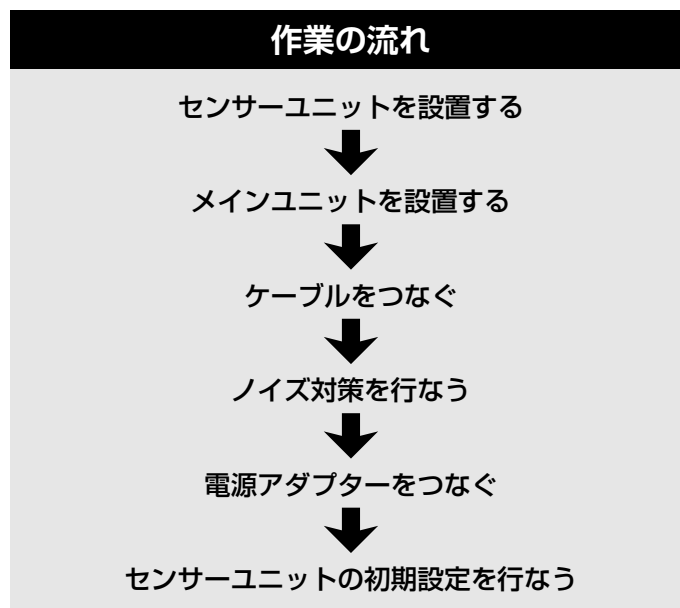
各トリガー入力端子に取り付け可能な別売品については下記ウェブサイトでご確認ください。別売品の接続については「別売品でドラムセットの機能を拡張する」(48ページ)をご覧ください。

ヤマハダウンロード <http://download.yamaha.com/jp/>

※ウェブサイトの URL は予告無く変更することがあります。

準備編

設置や初期設定など、演奏の準備をします。



以上で準備完了です。

設置

■ ドラムセットの置きかた



ドラムのセッティングは、バスドラムを中心にバランス良く設置してください。バスドラムに取り付けたセンサーユニットから遠くに配置された楽器の音は小さくなる可能性があります。また、ライドシンバルなどの楽器が近すぎると音が大きくなり、バランスが悪くなります。

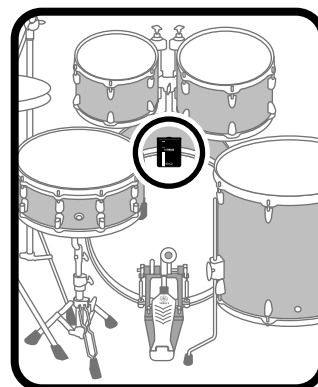
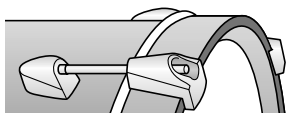
バスドラムを2つ並べるツーバスセッティングでは正しく機能しないため、おすすめしません。

■ センサーユニットを設置する

バスドラムの打面側のフープ上部にセンサーユニットを取り付けます。

● 標準的なストレートのフープ

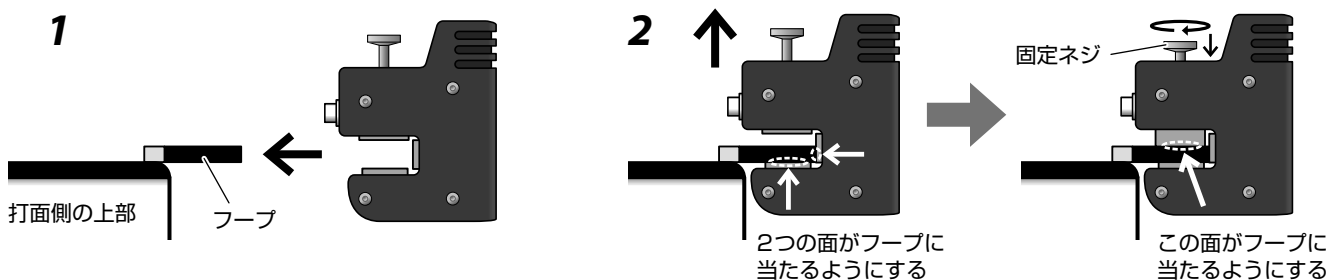
ウッドフープなど



1. バスドラムの打面側のフープ上部を挟み込むようにして奥まで差し込みます。
2. センサーユニットを持ち上げて、図で示した2つの面がフープに当たるようにしてから固定ネジを回して固定します。

固定ネジをしっかりと締め付けて、センサーユニットがぐらぐらしないようにしてください。

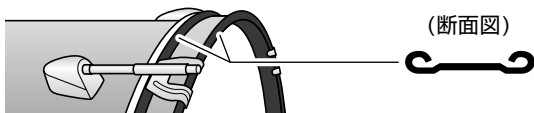
横から見たところ



● それ以外のフープ

メタルフープなど

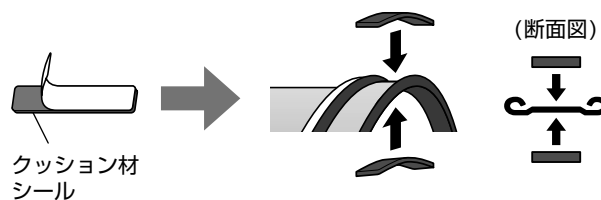
断面に段差があるタイプ



1. 付属のクッション材シールをフープ上部の外側と内側に1枚ずつ貼ります。

注記

クッション材シールで段差を埋めて、しっかり固定してください。クッション材シールを使用しない場合、演奏中にセンサーユニットが落下するおそれがあります。



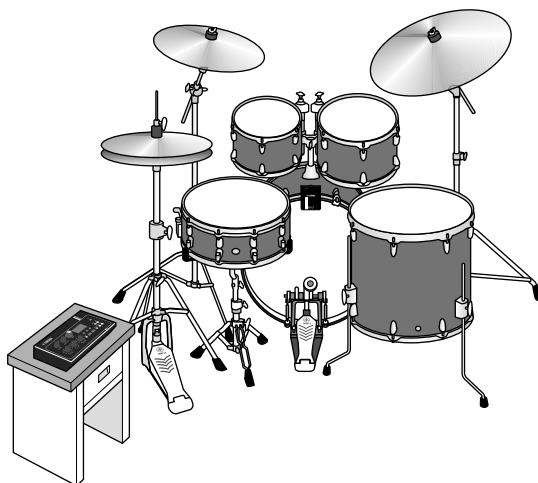
2. 標準的なストレートのフープと同じ手順でバスドラムに取り付けます。

■ メインユニットを設置する

メインユニットは台の上などに置くか、ハイハットスタンドに取り付けるなどして設置します。

● 台の上などに置く

台の上などに置いて使います。

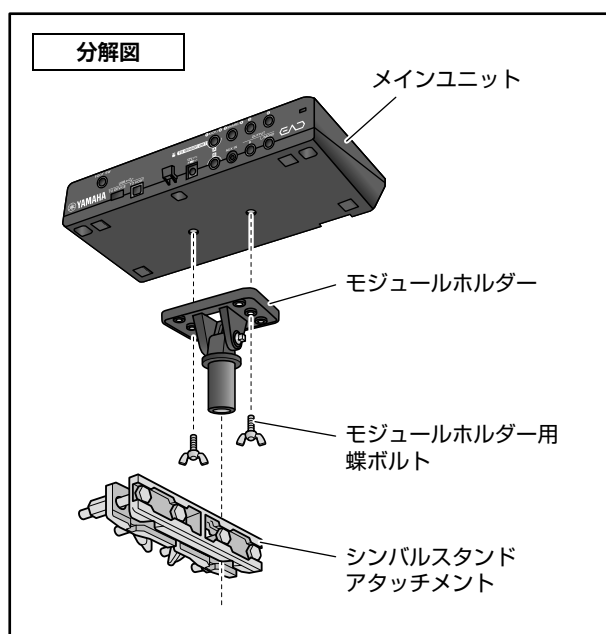
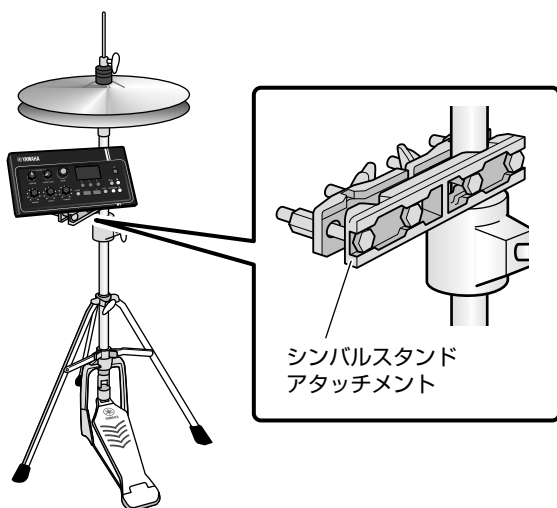


● ハイハットスタンドに取り付ける

1. 別売のシンバルスタンドアタッチメント (CSAT924A) などと付属のモジュールホルダーを組み合わせて、ハイハットスタンドに取り付けます。

モジュールホルダー用蝶ボルトを締め付けて、メインユニットとモジュールホルダーをしっかりと固定させてください。

ひざが当たらないよう、スタンドの上のほうに取り付けることをおすすめします。

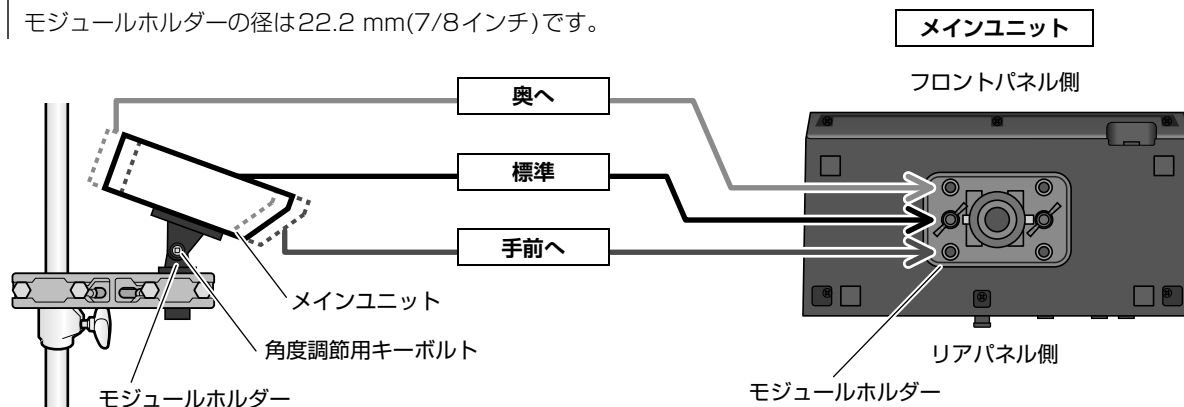


モジュールホルダーについて

モジュールホルダーには3組の穴があります。標準的な位置に取り付ける場合は中央の穴、メインユニットが手前になるように取り付ける場合はリアパネル側、奥になるように取り付ける場合はフロントパネル側の穴に取り付けます。

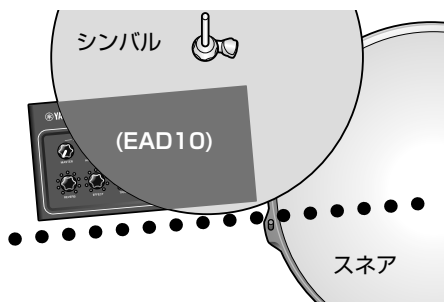
NOTE

モジュールホルダーの径は22.2 mm(7/8インチ)です。



- 上から見てシンバルの端よりも内側になるように設置するなど、メインユニットを叩いてしまわないように位置を調整することをおすすめします。

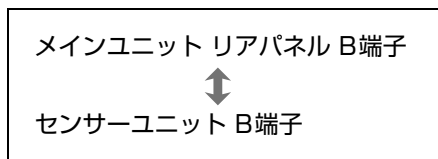
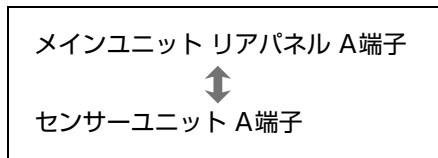
メインユニットの角度調節にはチューニングキー(別売)をお使いください。



■ ケーブルをつなぐ

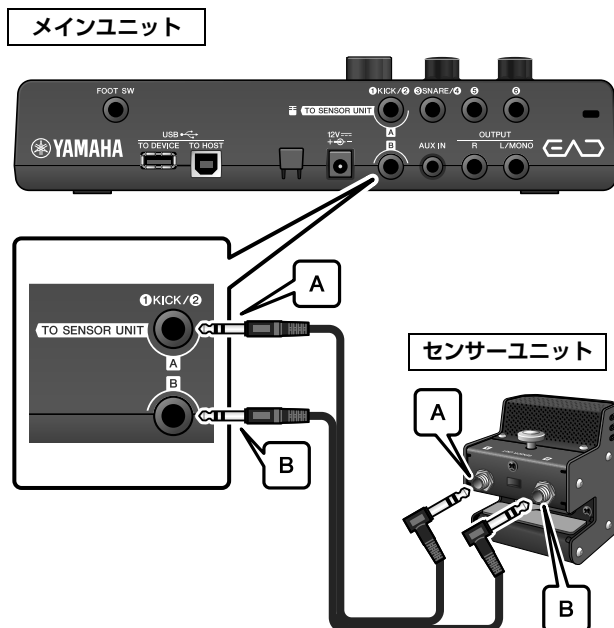
ストレートプラグ側をメインユニット側、L字プラグ側をセンサーユニット側に接続します。

付属接続ケーブル



⚠ 注意

電源が入っている間はケーブルの抜き差しをしないでください。



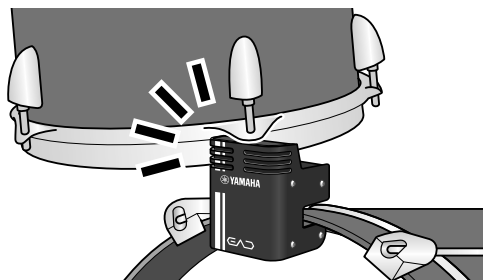
■ ノイズ対策を行なう

演奏中にセンサーユニットにタムなどが接触したり、接続ケーブルが動いたりするとノイズの原因になるため、あらかじめ位置を調整しておいてください。

● センサーユニットの位置を確認する

センサーユニットがタムなどに当たらないようにします。

誤った設置の例

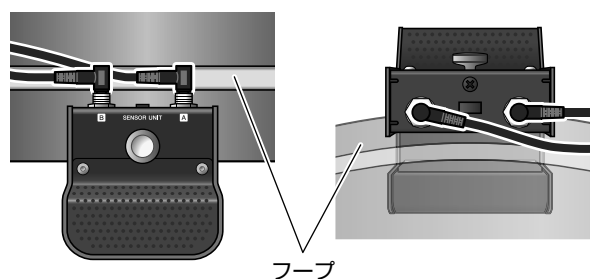


● ケーブルを固定する

センサーユニットのL字プラグを横向きにします。こうすることでケーブルの位置が安定します。

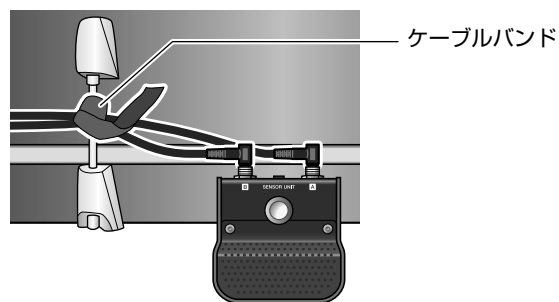
上から見たところ

センサーユニット端子側から見たところ

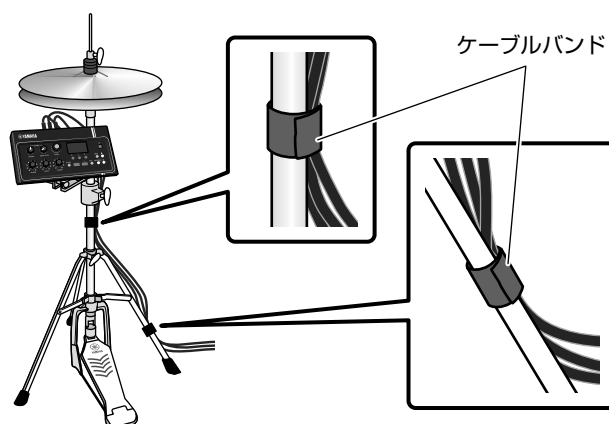


接続ケーブルは、ケーブルバンドを使ってセンサーユニット近くの位置に固定します。

上から見たところ



メインユニットをハイハットスタンドに取り付けるときには、ペダル部分にケーブルが巻き込まれないよう、ケーブルバンドでケーブルを固定するなどしてください。



■ 電源アダプターをつなぐ

⚠ 警告

電源アダプターは、必ず指定のもの(63ページ)をご使用ください。異なった電源アダプターを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。このような場合は、保証期間内でも保証いたしかねることがございますので、十分にご注意ください。

⚠ 注意

本機はコンセントの近くに設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

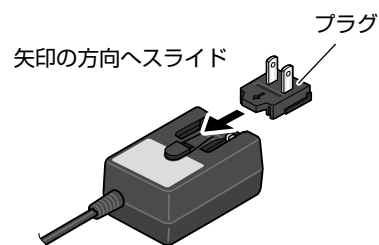
1. 電源がオフの状態(パネルのランプがすべて消え、画面に何も表示されていない状態)になっていることを確認します。



2. プラグが外れるタイプのみ：
プラグが外れていないことを確認します。

⚠ 警告

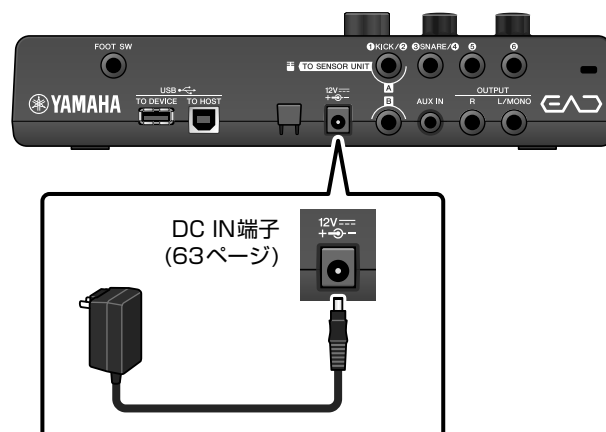
- プラグが外れるタイプの電源アダプターは、必ずプラグを装着した状態で使用、または保管してください。プラグ部分だけをコンセントに差し込むと、感電や火災の原因になります。
- プラグが外れた場合は、内部の金属部分に触れないように注意して、カチッと音がするまで完全に差し込んでください。また異物が入らないようにご注意ください。感電やショート、故障の原因になります。



3. 電源アダプターを接続します。

⚠ 警告

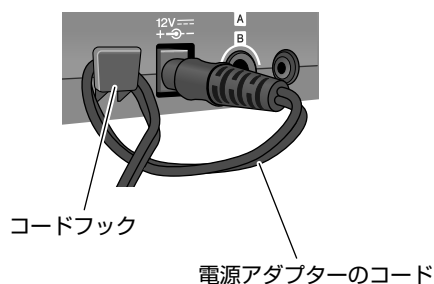
電源アダプターは必ず指定のものをお使いください。



4. 電源アダプターのコードをコードフックに巻きつけて固定します。

⚠ 注意

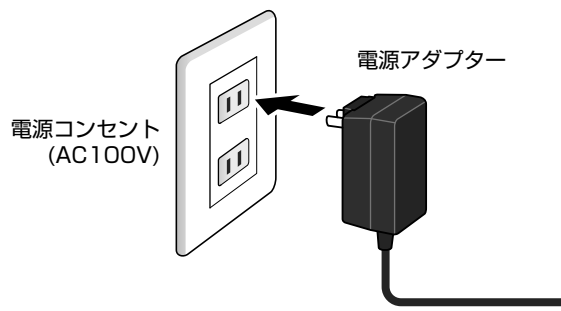
コードフックに巻きつけるとき、電源アダプターのコードを極端に折り曲げないでください。コードの断線や発火の原因となります。



5. 電源アダプターのACプラグを家庭用(AC100V)コンセントにさし込みます。

⚠ 注意

[⏻](スタンバイ/オン)スイッチがスタンバイの状態でも微電流が流れています。長時間使わないときは必ずACプラグをコンセントから抜いてください。



NOTE

電源アダプターを外すときは、電源を切ってから、逆の手順で行なってください。

■ ヘッドフォンを接続する

ヘッドフォンを[PHONES]端子に接続します。

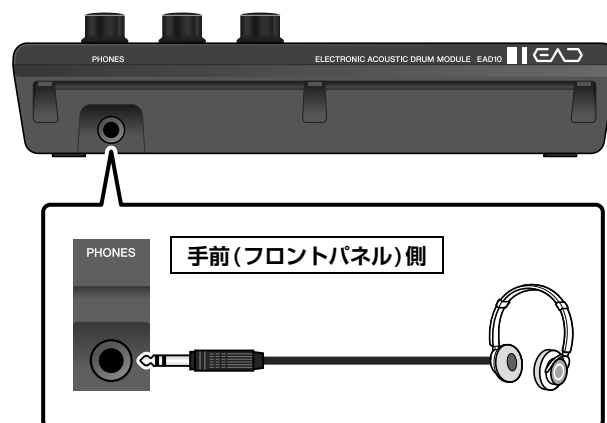
⚠ 注意

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

NOTE

オープン型やセミオープン型のヘッドフォンをお使いの場合は以下の点にご注意ください。

- ヘッドフォンの外からドラム演奏音が直接漏れて聞こえるため音量が大きくなりがちです。
- レコーディングやPA接続時にはヘッドフォンからクリック音が漏れることがあります。



他の機器と接続して楽しみを広げる

ここでは、携帯用音楽プレーヤーとPAシステムへの接続について説明します。

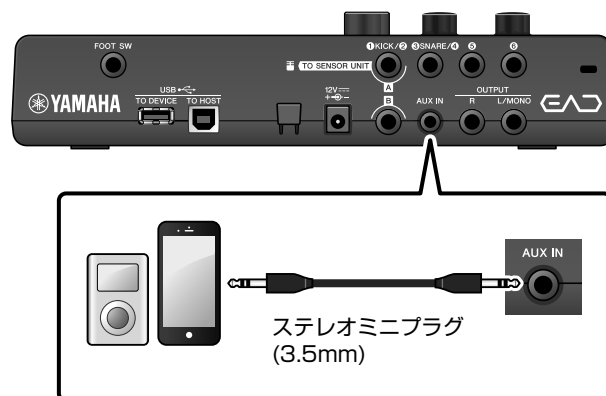
■ 携帯用音楽プレーヤーを接続する

スマートフォンや携帯用音楽プレーヤーの曲に合わせて演奏できます。

注記

接続の前に、外部機器のボリュームが最小になっていることを確認してください。

スマートフォンや携帯用音楽プレーヤーを[AUX IN]端子に接続します。



■ PAシステムに接続する

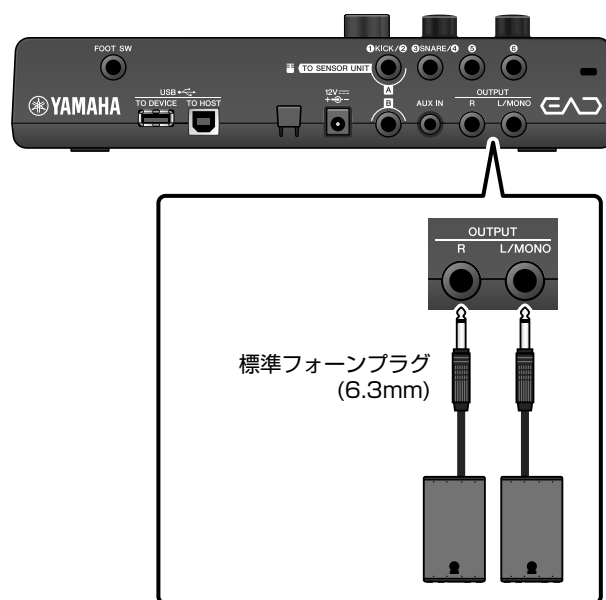
OUTPUT[R]/[L/MONO]端子と、スタジオやライブハウスのPAシステムとを接続します。

⚠ 注意

- マイクとスピーカーの位置によっては、ハウリング音(キーンという音)が出る場合があります。
- ディストーション、コンプレッサーなど増幅度の高いエフェクトを使用したシーンでは、ハウリング音が出やすいのでご注意ください。

注記

- 接続にはそれぞれの機器の端子形状に適合したプラグを持つケーブルをお使いください。
- 接続の前に、外部機器のボリュームが最小になっていることを確認してください。
- 本機メインユニットの音を外部機器に出力するときは、最初に本機メインユニット、次に外部機器の順に電源を入れてください。電源を切るときはこの逆の順で行なってください。機器の損傷の原因になります。



■ コンピューターを接続する

コンピューターとDAWソフトウェアをお持ちの場合は、メインユニットとコンピューターを接続すると、自分の演奏をコンピューターに保存したり、演奏した音をコンピューターから聞いたりできます。詳しくはリファレンスマニュアル(詳細編)(PDF)をご参照ください。

[USB TO HOST] 端子ご使用時の注意

[USB TO HOST] 端子でコンピューターと接続するときは、以下のことを行なってください。以下のことを行なわないと、コンピューターや本機が停止(ハングアップ)して、データが壊れたり、失われたりするおそれがあります。

コンピューターや本機が停止したときは、アプリケーションやコンピューターを再起動したり、本機の電源を入れ直したりしてください。

注記

- USBケーブルは、ABタイプのものご使用ください。また、3メートル未満のケーブルをご使用ください。USB3.0ケーブルは、ご使用できません。
- [USB TO HOST] 端子でコンピューターと接続する前に、コンピューターの省電力(サスペンド/スリープ/スタンバイ/休止)モードを解除してください。
- 本機の電源オン/オフやUSBケーブルの抜き差しをする前に、以下のことを行なってください。
 - すべてのアプリケーションを終了させてください。
- 本機の電源オン/オフやUSBケーブルの抜き差しは、6秒以上間隔を空けて行ってください。

電源を入れる、切る

■ 電源を入れる

⚠ 注意

電源を入れた後でメインユニットとセンサーユニットをつなぐケーブルの抜き差しをしないでください。ノイズが発生します。

1. [MASTER VOLUME] ノブを左に回し、メインユニットの音量を最小にします。



2. [⏻] (スタンバイ/オン) スイッチを押します。

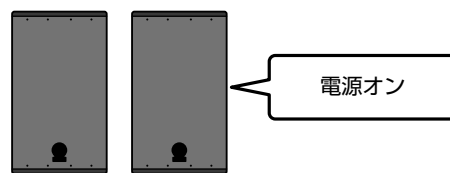
液晶ディスプレイにオープニング画面が表示された後、シーン画面が表示されます。



実際の仕様とは異なる場合があります。

電源を入れる、切る

3. PAシステムに接続している場合：
外部スピーカーの電源を入れます。

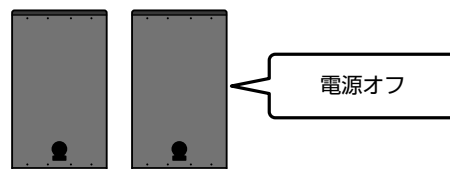


■ 電源を切る

注記

- 電源オフ時に本体の設定は自動的に保存されます。液晶ディスプレイが完全に消えるまで電源アダプターを抜かないでください。
- 保存(ストア)していないシーンのデータは消去されるため、電源オフ前に必ず保存(ストア)を実行してください。

1. PAシステムに接続している場合：
外部スピーカーの電源を切ります。



2. [MASTER VOLUME] ノブを左に回し、メインユニットの音量を最小にします。



3. [⏻](スタンバイ/オン)スイッチを長押しします。
液晶ディスプレイやランプが消灯し、スイッチを切った状態(スタンバイ)になります。



すべて消灯

センサーユニットの初期設定を行なう

■ センサーユニットの設定について

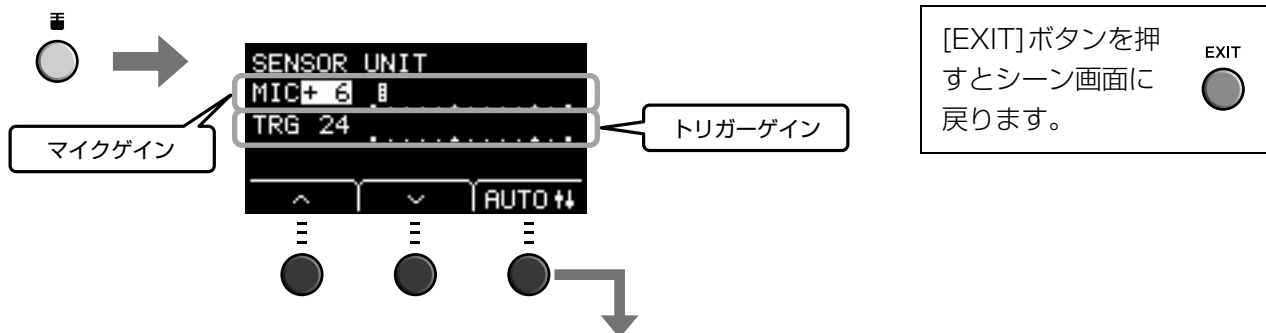
センサーユニットに内蔵されているマイクセンサーやトリガーセンサーのゲインや感度を調節します。ゲインの調節が必要な場合は自動設定機能もお使いいただけます。

設定	画面表示	最適な状態
MIC (マイクゲイン)		ドラムセット全体を叩いて、ときどきレベルが右端まで到達し、[EXIT] (センサーユニット) ボタンが点灯する
TRG (トリガーゲイン)		バスドラムを強く叩いたときにレベルが右端まで到達する

■ センサーのゲインを自動設定する

1. [EXIT] (センサーユニット) ボタンを押します。

センサーユニット設定画面が表示されます。

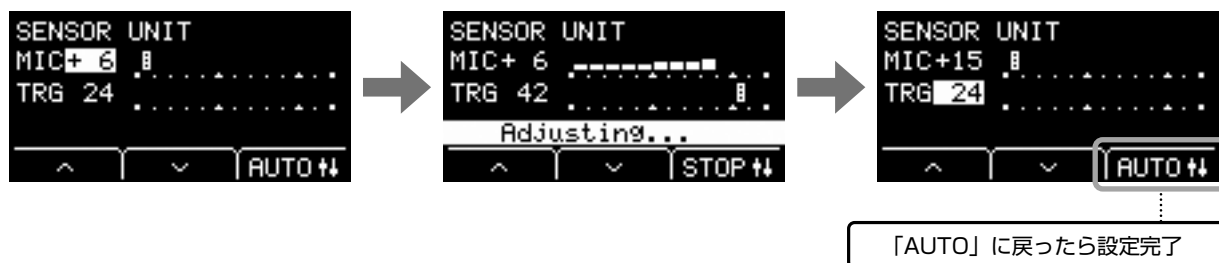


自動設定する

2. 「AUTO」 の下のボタン ([F3]) を押します。

3. ドラムセットの全部の楽器で8ビートを叩きます。

10秒程度叩くと設定が終わります。



自動設定を途中でやめたいときはSTOPを押すと、設定が終わります。

NOTE

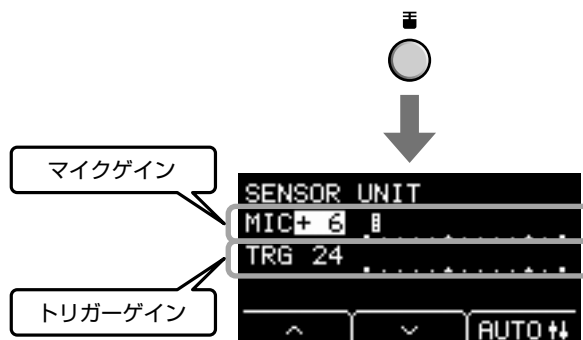
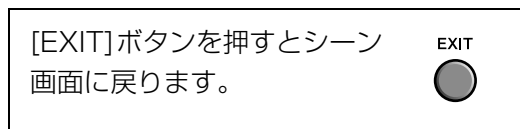
場合によってはうまく検出されないことがあります。その場合は自動設定を数回試してください。微調整は手動で行なってください。自動調節を数回試してもうまくいかない場合は手動で設定してください。

センサーユニットの初期設定を行なう

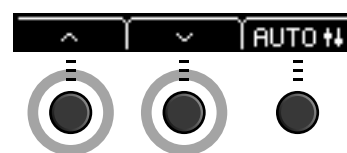
■ センサーユニットの設定を手動で調節する

1. [🗨️](センサーユニット)ボタンを押します。

センサーユニット設定画面が表示されます。



2. 「^」または「v」の下ボタン([F1]または[F2])を押してカーソルを動かします。



3. [-]または[+]ボタンを押して、値を調整します。



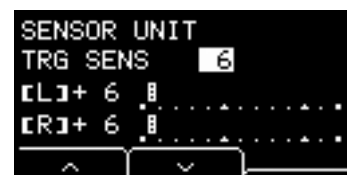
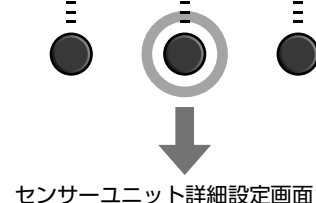
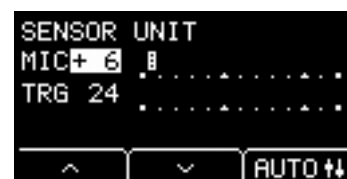
● さらに細かく設定を調節する

1. センサーユニット設定画面が表示されている状態で「v」の下ボタン([F2])を押します。

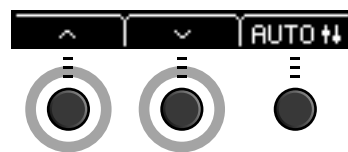
センサーユニット詳細設定画面が開きます。

TRG SENS (トリガーセンス)	弱打の感度	値が大きいほど、弱く叩いても大きな音が出るようになります。 NOTE ・小さくしすぎるとバスドラムの弱打でトリガー音色が鳴らないことがあります。 ・大きくしすぎるとスネアなどを叩いてバスドラムのトリガー音色が鳴ることがあります。
[L]	マイクゲイン左	マイクの左右の音量バランスが悪いときには、LとRを調節してください。
[R]	マイクゲイン右	NOTE Lの設定とセンサーユニット設定画面のMIC設定は同じ値が表示されます。

センサーユニット設定画面



2. 「 \wedge 」または「 \vee 」の下のボタン([F1]または[F2])を押してカーソルを動かします。



3. [-]または[+]ボタンを押して、値を調整します。



全体の設定を変える

■ オートパワーオフ(自動電源オフ)

オートパワーオフとは、本体を一定時間操作しなかった場合、自動的に電源がオフになる機能です。工場出荷時は30分で設定されています。

注記

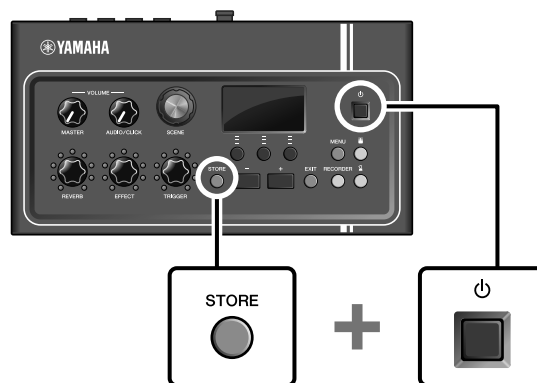
- オートパワーオフで電源が切れた場合、保存(ストア)していないデータは消去されます。電源が切れる前に必ず保存(ストア)してください。
- 本体の状態によっては、一定時間操作せずにオートパワーオフの設定時間が経過しても電源が切れない場合があります。使用後は、手動で本体の電源を切ってください。
- 外部オーディオ機器やPA機器などを本体に接続した状態で、一定時間本体を操作しない場合は、外部オーディオ機器の音量をゼロにしておくことをおすすめします。本体の電源が自動的に切れないようにするには、オートパワーオフを解除してください。

NOTE

オートパワーオフで電源が切れるまでの時間を30分以上にしたい場合には、[MENU]ボタンからオートパワーオフの設定を変更できます。(MENU/Utility/General)

● オートパワーオフの簡単解除

[STORE]ボタンを押しながら[$\text{\textcircled{P}}$](スタンバイ/オン)スイッチを押すと、オートパワーオフ機能が解除されます。この場合、解除の設定は自動的に保存されます。



■ 本体の設定を初期の状態に戻す (ファクトリーリセット)

ファクトリーリセットを実行すれば、本体の設定を誤って書き換えてしまった場合でも、初期の状態に戻すことができます。

注記

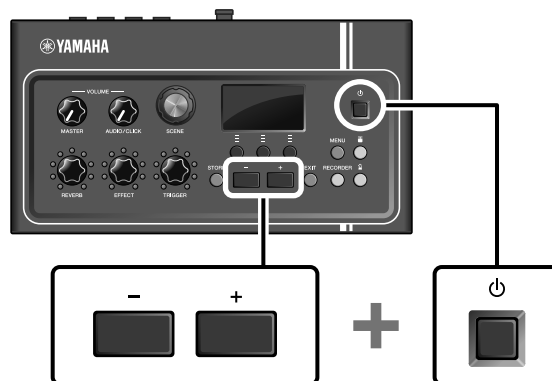
ファクトリーリセットを行なうと、設定したすべてのデータが消え、工場出荷時の状態に戻ります。大切なデータは、ファクトリーリセットを行なう前にUSBフラッシュメモリーに保存してください。データの保存について詳しくはリファレンスマニュアル(詳細編)(PDF)をご参照ください。(MENU/File)

● ファクトリーリセットを行なう

[−]ボタンと[+]ボタンを押しながら[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押すと、ファクトリーリセットが実行されます。

NOTE

[MENU]ボタンからファクトリーリセットを選んで実行することもできます。



USBフラッシュメモリの取り扱い

メインユニットリアパネルの[USB TO DEVICE]端子にUSBフラッシュメモリーを接続すると、自分の演奏をUSBフラッシュメモリーに直接録音できます。またメインユニットの設定をUSBフラッシュメモリーに保存(セーブ)したり、読み込んだり(ロード)できます。

■ USBフラッシュメモリーをメインユニットに接続する

[USB TO DEVICE] 端子のご使用上の注意

メインユニットの[USB TO DEVICE]端子にUSBフラッシュメモリーを接続するときは、以下のことを守ってください。

NOTE

USBフラッシュメモリーの取り扱いについては、お使いのUSBフラッシュメモリーの取扱説明書もご参照ください。

● 使用できるUSB機器

USBフラッシュメモリのみのみ

動作確認済みのUSBフラッシュメモリについては下記URLでご確認ください。

<http://download.yamaha.com/jp/>

NOTE

- ・ 上記以外のUSB機器(USBハブ、マウス、コンピューターのキーボードなど)は、接続しても使えません。
- ・ [USB TO DEVICE]端子へのUSB機器の接続にはケーブルは使用できません。

注記

[USB TO DEVICE]端子の定格は最大5V/500mAです。定格を超えるUSB機器は故障の原因になるため、接続しないでください。

● USBフラッシュメモリの接続

[USB TO DEVICE]端子の形状に合うプラグを上下の向きに注意して差し込んでください。本機はUSB1.1に対応していますが、USB2.0またはUSB3.0のフラッシュメモリーでも使用できます。ただし転送スピードはUSB1.1相当になります。

注記

- ・ USBフラッシュメモリーの抜き差しは、再生中、録音中、ファイルの操作中(保存/コピー/削除/フォーマットなど)、およびUSB機器へのアクセス中には行なわないでください。メインユニットの機能が停止したり、USBフラッシュメモリーやデータが壊れたりするおそれがあります。
- ・ USBフラッシュメモリーの抜き差しは、数秒間隔を空けて行なってください。

● USBフラッシュメモリーの初期化(フォーマット)

USBフラッシュメモリーの中には、本機で使用する前に初期化が必要なものがあります。USBフラッシュメモリーの初期化の手順については、別冊のリファレンスマニュアル(詳細編)(PDF)をご参照ください。(MENU/File/Format)

注記

初期化すると、そのUSBフラッシュメモリーの中身は消去されます。必要なデータが入っていないことを確認してから初期化してください。

● 誤消去防止



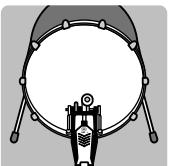
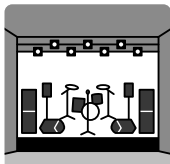

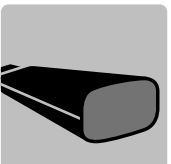
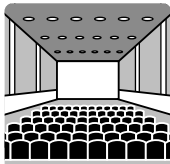





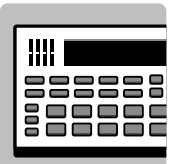

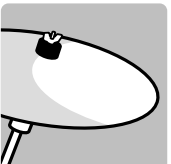
USBフラッシュメモリーには、誤ってデータを消してしまわないようにするため、データの書き込み保護ができるものがあります。大切なデータが入っている場合は、データの書き込み保護を有効にして書き込みができないようにしてください。データを保存する場合などは、ご使用前にお使いのUSBフラッシュメモリーのデータの書き込み保護が解除されていることをご確認ください。

いろいろなシーンを使って演奏する

■ シーンとは

シーンとは、リバーブとエフェクトとトリガー音色を組み合わせたものです。本機にはプリセットのシーンが搭載されており、シーンを切り替えることで音の鳴りかたが変わります。

シーン

リバーブ	エフェクト	トリガー音色
 スタジオ	 ディストーション	 バスドラム
 ライブハウス	 ワウ	 カウベル
 コンサートホール	 フェーザー	 スネア
	 ディレイ	 タンバリン
	 コンプレッサー	 その他
	 フランジャー	 シンバル

会場やスタジオなどの残響音をシミュレートします。たとえば、自宅での練習でもライブ会場の気分が味わえます。

マイクセンサーで取り込んだ音を遅らせたり、ひずませたり、周期的に変化させるなどして加工します。

トリガー音色を使ってドラムの音を強調したり、装飾したりします。DTXシリーズのパッドを増設すると、電子ドラムの音などを鳴らせます。

また、自分で作ったシーンをユーザーシーンとして保存し、[SCENE]ノブを回して設定を呼び出せます。(35ページ)

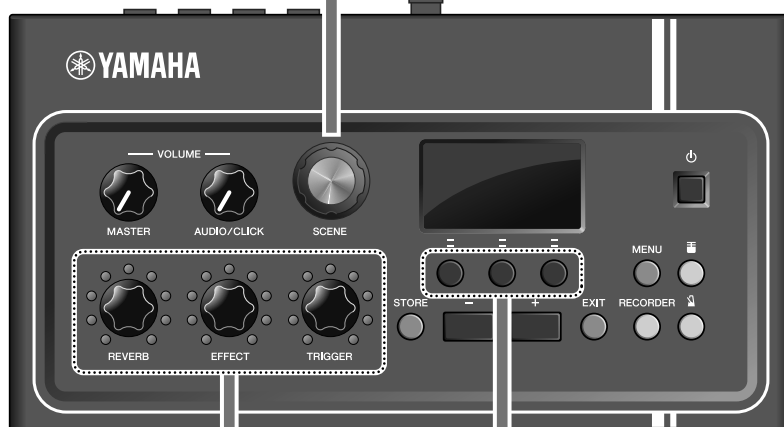
ライブで使う場合には、シーンを好きな順番に並び替えて保存し、[SCENE]ノブを回したり、パッドを叩いたりしてシーンを呼び出すことができます。詳しくはリファレンスマニュアル(詳細編)(PDF)をご参照ください。(MENU/Job/Scene、MENU/Utility/PadFunction)

■ シーンの基本操作

シーンの種類を切り替えます。
他の画面にいるときはシーン画面へ戻ります。

NOTE
以下の画面にいるときはシーン画面には戻らずに、[-]ボタン、[+]ボタンと同じ用途で使えます。

- ストアなどシーン番号を選択する画面
- ネーム入力画面



リバーブ、エフェクト、トリガー音色の量を調節する

リバーブ、エフェクト、トリガー音色の種類を変える

■ シーン画面の見かた

シーン番号

シーン名

SCENE

P001

Arena

REV

≡

●

EFF

≡

●

TRG

≡

●

テンポに同期するシーンの場合は、テンポ設定が表示されます。

センサーユニットの状態が表示されます。
M：マイクの音量
T：トリガー信号の強さ

リバーブ設定の画面を開く

エフェクト設定の画面を開く

トリガー音色設定の画面を開く

各設定画面からシーン画面に戻りたいときは、[EXIT]ボタンを押します。

EXIT

●

注記

画面の「」マークについて：

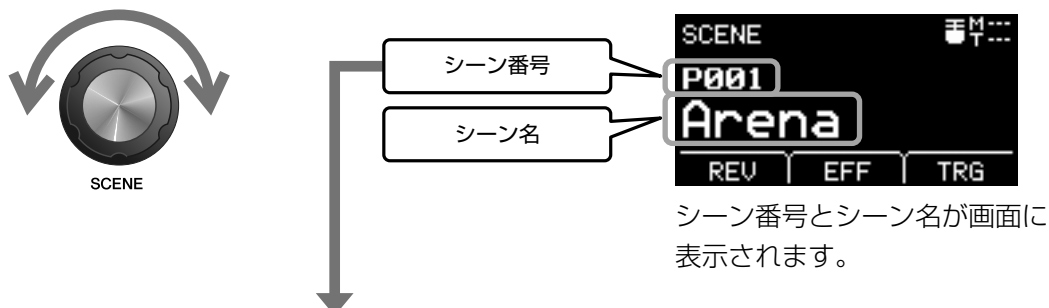
シーンの設定を変更すると、画面の左上に と表示されます。これはシーン設定の編集後、保存(ストア)されていないことを示しています。ストアするとマーク表示は消えます(37ページ)。ストアしないでシーンを切り替えると、変更した設定は失われます。



いろいろなシーンを使って演奏する

■ シーンを切り替える

1. [SCENE] ノブを回します。



P*** : プリセットシーン
(あらかじめ搭載されているシーン)

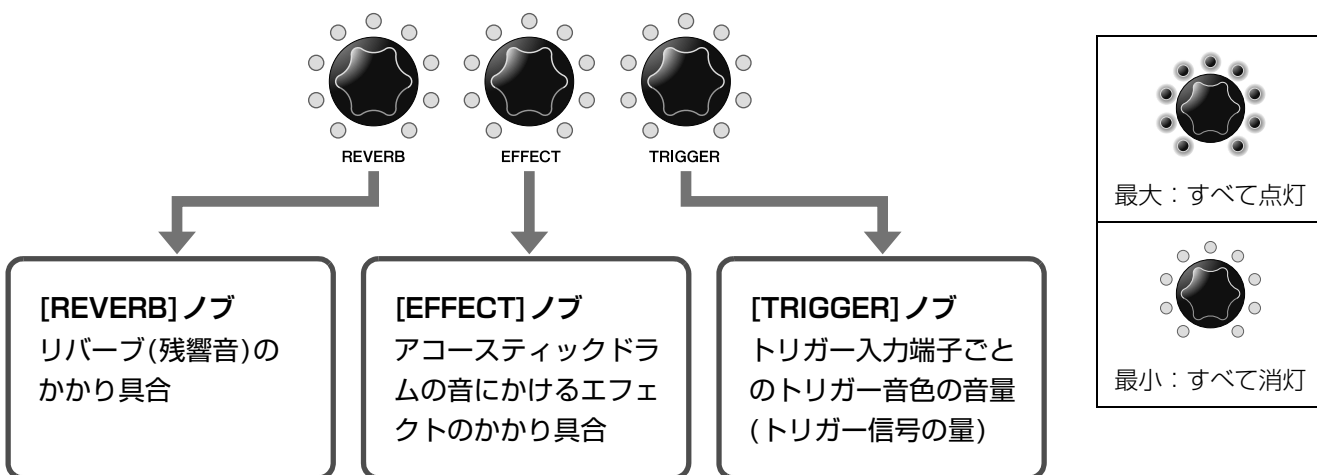
U*** : ユーザーシーン(自分だけのシーン)

NOTE

編集中のシーンを保存(ストア)しないで切り替えてしまった場合、リコール機能によって編集中の内容呼び戻すことができます。詳しくはリファレンスマニュアル(詳細編)(PDF)をご参照ください(MENU/Job/Scene/Recall)。

■ シーンを調整する

● リバーブとエフェクトのかかり具合やトリガー音色の音量などを調節する



シーンを調整後、保存(ストア)しないでシーンを切り替えると、調整した内容は失われます。

自分だけのシーンを作る

本機では、プリセットのシーンをカスタマイズして、自分だけのシーンを作ることができます。



NOTE

トリガー音色を確認するためには、[TRIGGER]ノブを右に回して音量を上げる必要があります。

リバーブの種類を変える

1. 「REV」 の下のボタン ([F1]) を押します。

リバーブタイプ画面が表示されます。



2. [-] または [+] ボタンを使って、使いたいリバーブを選びます。



エフェクトの種類を変える

1. 「EFF」 の下のボタン ([F2]) を押します。

エフェクトタイプ画面が表示されます。



2. [-] または [+] ボタンを使って、使いたいエフェクトを選びます。



テンポ同期エフェクトは、「」 ([F1]) と 「」 ([F2]) ボタンを使ってテンポを変えられます。



トリガー音色の種類を変える

- バスドラムのトリガー音色の種類を変える (購入時の設定)

1. 「TRG」 の下のボタン ([F3]) を押します。

トリガー音色画面が表示されます。



トリガー音色名

トリガー音色番号

2. [-] または [+] ボタンを使って、使いたいトリガー音色の番号を選びます。



「BYPASS」 (バイパス) について

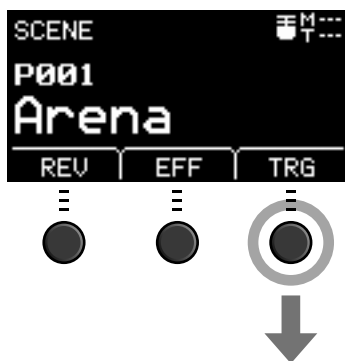
各画面で「BYPASS」 ([F3]) を選ぶと、該当するノブのランプが薄く点滅し、効果がかからなくなります。[F3] ボタンを押すたびバイパス設定のオンとオフが切り替わります。ノブが左いっぱい位置 (最小) で「BYPASS」 を選ぶと下のランプ2つが薄く点滅します。



■ トリガー音色設定のさらに進んだ使いかた

スネアドラムにドラムトリガーを取り付けた場合や、DTXシリーズのパッドを増設した場合などはトリガー音色を設定して鳴らすことができます。ここでは、トリガー音色を選ぶときに楽器カテゴリーを切り替えたり、トリガー音色を試聴したり、バイパス設定を切り替えてトリガー音色をオフにしたりする方法を説明します。

1. 「TRG」の下ボタン (F3) を押します。



パッドを切り替える

増設したパッドを叩いて、音色を変更したいパッドを選びます。
画面右上のパッド名が変わったことを確認します。

トリガー音色画面が表示されます。



楽器カテゴリーを切り替える

2. 「^」の下ボタン (F1) を押して、カーソルを「Category」(楽器カテゴリー名)に合わせます。
3. 「-」または「+」ボタンを使って、使いたい楽器カテゴリーを選びます。



その後、手順2と同じ方法でトリガー音色番号にカーソルを合わせ、手順3と同じ方法でトリガー音色番号を選びます。

試聴する

2. 「M」の下ボタン (F2) を押します。
トリガー音色を試聴できます。

より細かく設定を変えたい場合には、[MENU]ボタンを押して詳細設定を行ないます。詳しくはリファレンスマニュアル(詳細編)(PDF)をご参照ください。(MENU/Scene Edit/Inst または MENU/Scene Edit/Voice)

■ 外部の音色(ウェーブ)を使う

本機では、オーディオファイル(.wav)を取り込んでトリガー音色として鳴らすこともできます。

オーディオファイルの取り込みかたや設定について詳しくはリファレンスマニュアル(詳細編)(PDF)をご参照ください。(MENU/Job/Wave)

USBフラッシュメモリの取り扱いについては「USBフラッシュメモリの取り扱い」(30ページ)をご覧ください。

■ 作ったシーンに名前をつけて保存する

1. [STORE] ボタンを押します。

ストア先選択画面が表示されます。



2. 「NAME」 の下のボタン ([F2]) を押して、シーン名の編集画面を開きます。

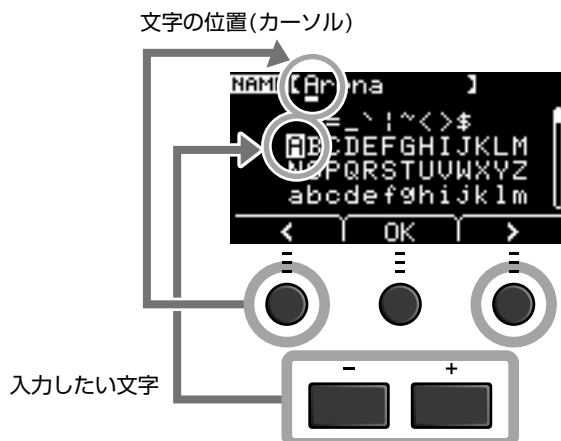


3. 「<」または「>」 の下のボタン ([F1]または[F3]) を押して文字位置を選び、[-]ボタンまたは[+]ボタンを押して入力したい文字を選びます。

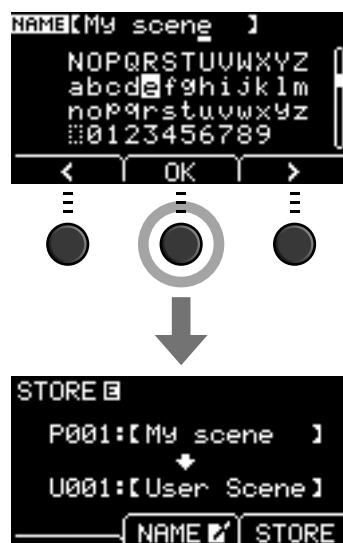
最大10文字の長さでシーン名を設定できます。

NOTE

[SCENE]ノブでも入力したい文字を選べます。



4. すべての文字の入力が終わったら、「OK」の下ボタン（[F2]）を押して、ストア先選択画面に戻ります。



5. [-]または[+]ボタンを押して、保存先のユーザーシーン番号を選びます。



NOTE

[SCENE]ノブでも変更できます。

6. 新しい保存先のシーン番号とシーン名が表示されているのを確認したら、「STORE」の下にあるボタン（[F3]）を押します。



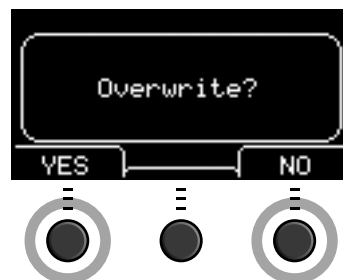
NOTE

編集したシーンはプリセットシーンには保存できません。

注記

上書き保存すると新しい内容に書き換えられてしまいます。よく確認してから実行してください。

すでにシーンが保存されている番号を選ぶと「Overwrite?」のメッセージが表示されます。
 上書き保存する場合は「YES」の下にあるボタン（[F1]）を押します。
 上書き保存しない場合には「NO」の下にあるボタン（[F3]）を押して前の画面に戻り、他の番号に変えます。



以上で保存が完了し、シーン画面に戻ります。

クリック(メトロノーム)を使う


クリック(メトロノーム)のテンポ、音量、音の種類などを設定します。

1. [](クリック)ボタンを押します。

テンポを変える


-
遅く

+
速く



クリック画面が表示されます。

前の画面またはシーン画面に戻るには[EXIT]ボタンを押します。

EXIT 

クリック音を鳴らす・止める

2. 「[]」の下のボタン([F1])を押してクリックを鳴らします。
クリックが鳴っている間は[CLICK]ボタンがテンポに合わせて点滅します。

3. クリックを止めるには「[]」の下のボタン([F1])を押します。

NOTE
[](クリック)ボタンを押しても、クリックを鳴らしたり、止めたりできます。

クリックのこまかい音量と音の種類を変える

2. 「VOL/BEAT」の下のボタン([F2])を押します。
音量と拍子の設定画面が表示されます。

VOLUME/BEAT

ACC	♪	♪	♪	♪	BEAT
0	9	0	0	0	4
					4
					4
					VOICE

ボタンを押すタイミングでテンポを決める(タップテンポ)

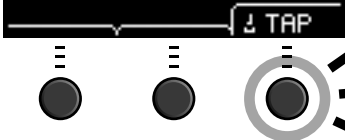
お好みのタイミングでボタンを押してテンポを決められます。

2. 「TAP」の下のボタン([F3])を押します。
タップ設定画面が表示されます。

TAP

♪ = 120

3. 「♪ TAP」の下のボタン([F3])を3回以上押します。



押したテンポが検出され、画面に表示されます。

NOTE
バスドラムやトリガー入力端子に接続されているパッドを叩いてテンポを設定することもできます。

(次のページへ続く)



(前ページからの続き)

音量と拍子の設定画面



音量を調節					拍子を調節
ACC.	4分音符	8分音符	16分音符	8分3連符	BEAT
小節の先頭	4分音符	8分音符	16分音符	8分3連符	拍子 (1/4~16/4、 1/8~16/8、 1/16~16/16)

拍子が3/8、6/8、9/8、12/8、15/8のときは、設定できる項目がAcc、付点4分、8分、16分です。

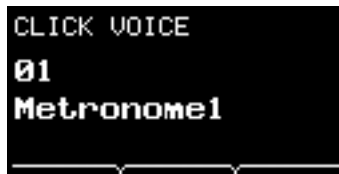
クリックのこまかい音量を変える

3. 「<」または「>」の下のボタン([F1]または[F2])を押して、カーソルを動かします。
4. [-]または[+]ボタンを使って、音量を調節します。



クリック音の種類を変える

3. 「VOICE」の下のボタン([F3])を押します。クリック音色設定画面が表示されます。



4. [-]または[+]ボタンを使って、クリック音の種類を変えます。

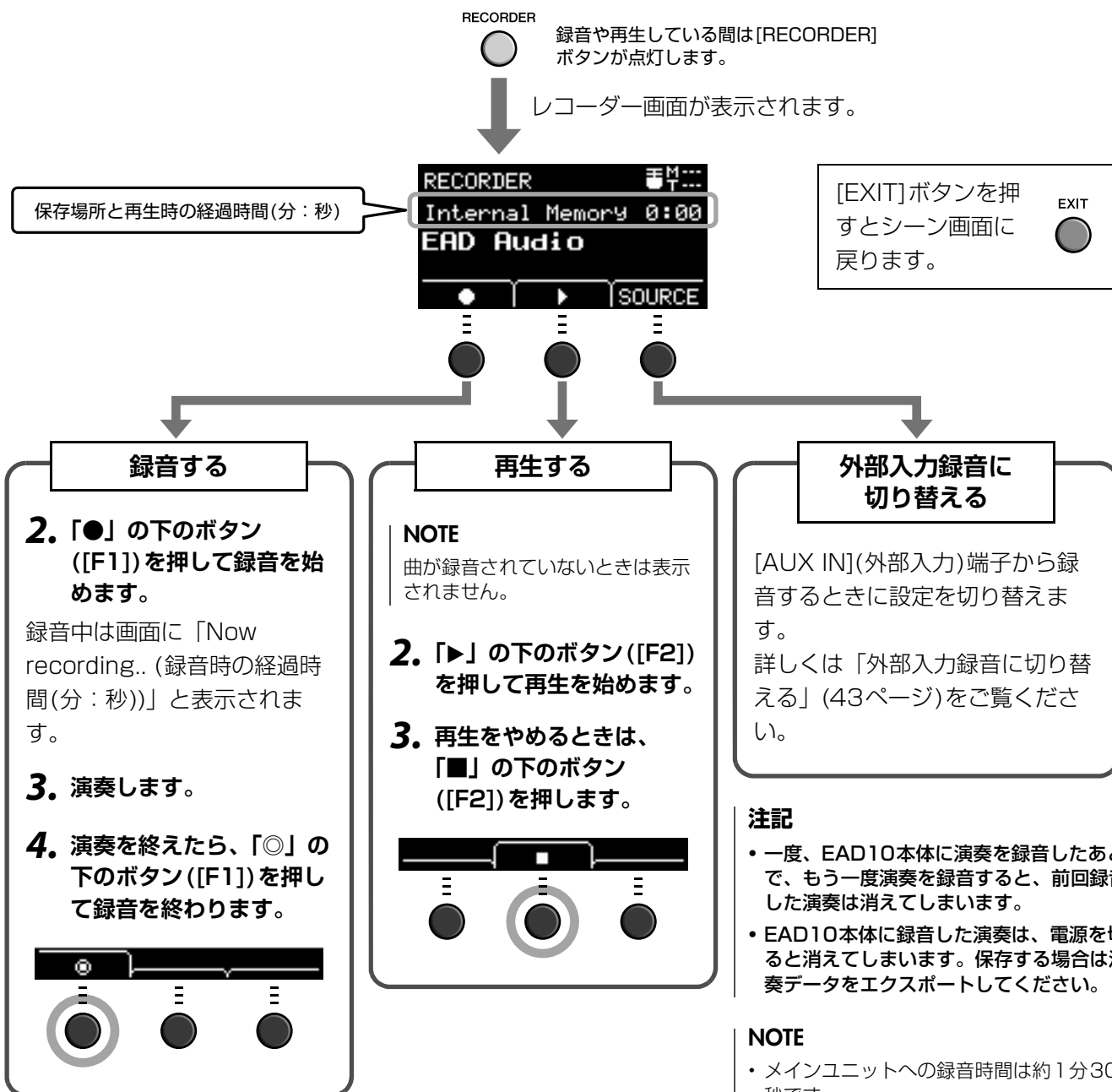


自分の演奏を録音する

本機を使って自分の演奏を録音できます。USBフラッシュメモリーが接続されているときはUSBフラッシュメモリーに録音されます。

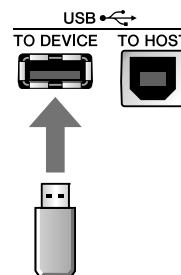
■ メインユニットに録音する (USBフラッシュメモリーを接続していないとき)

1. [RECORDER] ボタンを押します。



■ USBフラッシュメモリーに録音する

1. リアパネルの[USB TO DEVICE]端子にUSBフラッシュメモリーを差し込みます。



USBフラッシュメモリーを差し込むと

- 一度の録音で最大30分まで録音できます。
- 録音するたびに新しいファイルができます。
- 再生と録音を同時に押すと、再生中の曲に自分の演奏を重ねて録音できます。

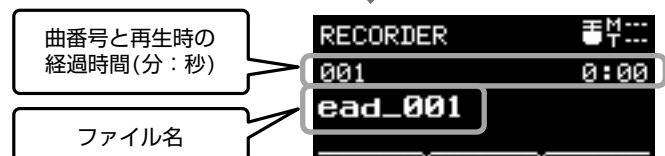
2. [RECORDER] ボタンを押します。

[EXIT] ボタンを押すと
シーン画面に戻ります。



RECORDER

USB録音画面が
表示されます。



曲番号と再生時の
経過時間(分:秒)

ファイル名

外部入力録音に切り替える

[AUX IN](外部入力)端子から録音する
ときに設定を切り替えます。
詳しくは「外部入力録音に切り替える」
(43ページ)をご覧ください。

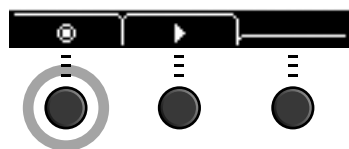
録音する

3. 「●」の下のボタン([F1])
を押して録音を始めます。

録音中は画面に「Now
recording.. (録音時の経過時
間(分:秒))」と表示されます。

4. 演奏します。

5. 演奏を終えたら、「○」の
下のボタン([F1])を押して
録音を終わります。

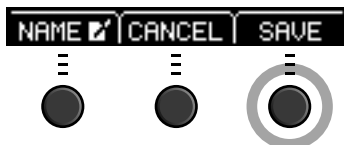


レコーダーセーブ画面が表示
されます。



6. 「SAVE」の下のボタン
([F3])を押して、ファイ
ルを保存します。

ファイルの保存を取りやめ
るときは「CANCEL」の下のボ
タン([F2])を押します。



NOTE

ファイル名を変更したい場合には
「NAME」の下のボタン([F1])を
押して、名前を入力します。(37
ページ)

再生する

NOTE

曲が録音されていないときは表示されま
せん。

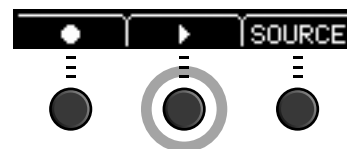
3. [-]または[+]ボタンを押して
再生したい曲を選びます。



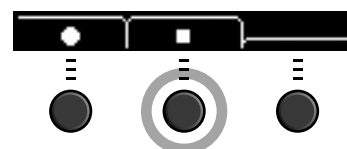
NOTE

認識されるのは100曲までです。

4. 「▶」の下のボタン([F2])を押
して再生を始めます。



5. 再生を止めるときは、「■」の
下のボタン([F2])を押します。



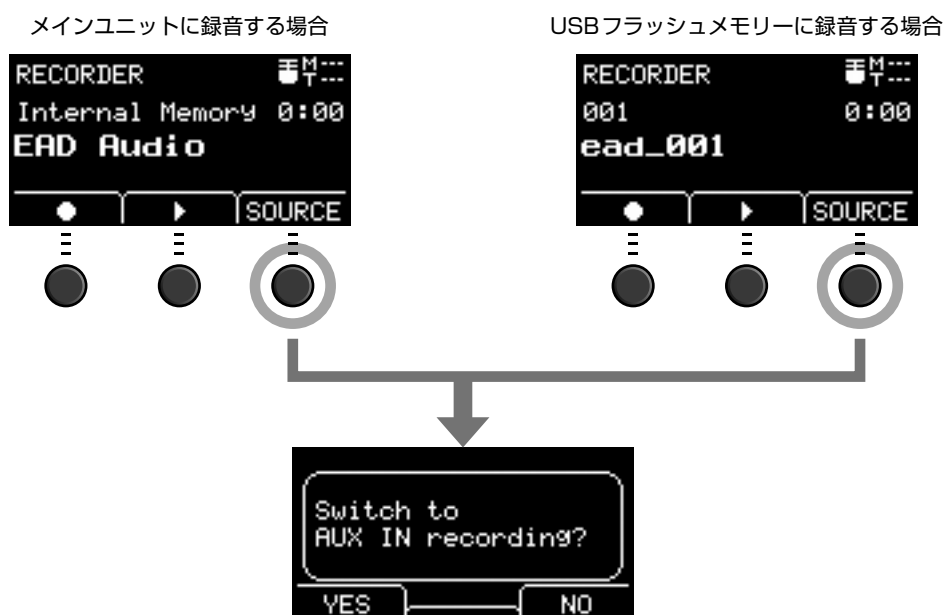
■ 外部入力録音に切り替える

[AUX IN](外部入力)端子から録音するときには入力ソースを切り替える必要があります。

1. [RECORDER] ボタンを押します。



2. 「SOURCE」 の下のボタン ([F3]) を押します。



確認画面が表示されます。

3. 「YES」 の下のボタン ([F1]) を押します。

外部入力録音に切り替わります。

NOTE

外部入力録音中は、自分の演奏音は鳴らなくなり録音もされません。



録音を終わると、入力ソースが元に戻ります。

■ 伴奏と自分の演奏を重ねて録音する

伴奏(バックグ)の曲をUSBフラッシュメモリーに取り込み、その曲を再生しながら演奏すると、自分の演奏と伴奏を合わせて1つのファイルとして録音できます。

NOTE

外部入力から再生する曲に合わせて自分の演奏を録音したときは、自分の演奏のみが録音されます。

● バックグの曲(オーディオファイル)を準備する

• コンピューターから取り込む

コンピューターからUSBフラッシュメモリーのルートディレクトリーにオーディオファイル(.WAV)を保存します。

オーディオファイルの条件：16ビット、44.1kHz、ステレオ、wav形式

NOTE

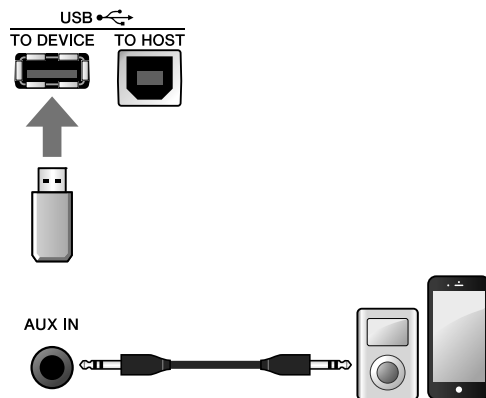
- 上記条件をすべて満たしたオーディオファイルでも、再生できない場合があります。
- オーディオファイルがフォルダに入っていると、本機では認識されません。

• 外部入力端子から取り込む

リアパネルの[AUX IN]端子に携帯用音楽プレーヤーなどを接続し、曲を再生できる状態にしておきます。

バックグの曲を録音する

1. リアパネルの[USB TO DEVICE]端子にUSBフラッシュメモリーを差し込み、[AUX IN]端子に携帯用音楽プレーヤーを接続します。

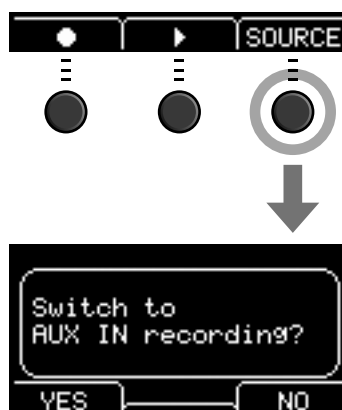


2. [RECORDER] ボタンを押します。

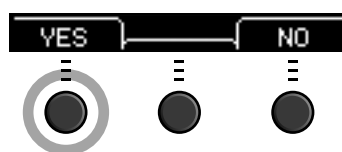
USB録音画面が表示されます。



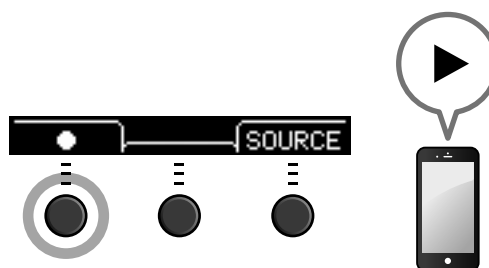
3. 「SOURCE」 の下のボタン ([F3]) を押します。
外部入力録音に切替える確認画面が表示されます。



4. 「YES」 の下のボタン ([F1]) を押して、外部入力録音に切り替えます。



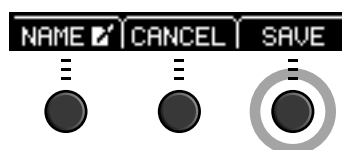
5. 「●」 の下のボタン ([F1]) を押して録音を始め、同時に携帯用音楽プレーヤーの曲の再生を始めます。



6. 曲の再生が終わったら「○」 の下のボタン ([F1]) を押して録音を終了します。
レコーダーセーブ画面が表示されます。



7. 「SAVE」 の下のボタン ([F3]) を押して、ファイルを保存します。
ファイルの保存を取りやめるときは「CANCEL」 の下のボタン ([F2]) を押します。



NOTE

ファイル名を変更したい場合には「NAME」 の下のボタン ([F1]) を押して、名前を入力します。(37ページ)

これでバックアップの曲がUSBフラッシュメモリーに準備できました。

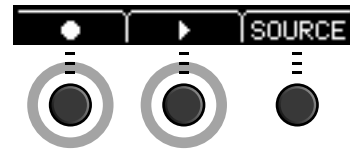
自分の演奏を録音する

● バッキングの曲を聞きながら自分の演奏を録音する

1. [-]または[+]ボタンを押して、準備したバック
グの曲を選びます。

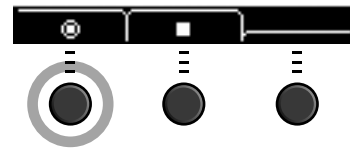


2. 「●」の下ボタン([F1])と「▶」の下ボタン
([F2])を押して、録音と再生を始めます。



3. 演奏します。

4. 演奏を終えたら、「◎」の下ボタン([F1])を押し
て録音を終わります。



NOTE

「■」の下ボタン([F2])を押すと、バックグの再生は止
まりますが、録音は継続します。

以上で伴奏と自分の演奏を重ねて録音できました。

■ スマートデバイスアプリケーションを使って録音する

NOTE

iPhone/iPadのアプリケーションと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるためiPhone/iPadの機内モードをオンにしてからWi-Fiをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。

注記

iPhone/iPadを不安定な場所に置かないでください。iPhone/iPadが落下して破損するおそれがあります。

本機対応のアプリケーションを使うことにより、楽器をもっと便利に楽しむことができます。

接続のしかたについて詳しくは、ウェブサイト上の「iPhone/iPad接続マニュアル」(PDF)をご参照ください。

対応のスマートデバイスやアプリケーションについて詳しくは、ウェブサイト上の下記ページでご確認ください。

<http://download.yamaha.com/jp/>

■ コンピューターを使って録音する

コンピューターを接続すると、DAWソフトウェアで自分の演奏を録音できます。

【用語】 DAWソフトウェア

デジタルオーディオワークステーション(Digital Audio Workstation)ソフトウェアの略で、オーディオの録音や編集、ミキシングなど一連の作業ができるCubaseのようなアプリケーションソフトのことを指します。

コンピューターの接続方法については、リファレンスマニュアル(詳細編)(PDF)をご参照ください。DAWソフトウェアの使いかたについてはお持ちのDAWソフトウェアの取扱説明書をご参照ください。

別売品でドラムセットの機能を拡張する

メインユニットのトリガー入力端子やフットスイッチ端子に別売品を接続すると、別売品を使ってトリガー音色を鳴らしたり、機能を切り替えたりできます。

別売品を接続してできることは次のとおりです。

[①KICK/②]～[⑥]端子に接続

別売品	主な用途
ドラムトリガー 	<ul style="list-style-type: none">● アコースティックドラムに取り付けて、ドラムを叩くタイミングや強さに応じてトリガー音色を鳴らす
パッド(*1) 	<ul style="list-style-type: none">● パッドを叩くタイミングや強さに応じてトリガー音色を鳴らす● 機能を切り替える

→ 50ページ

→ 52ページ

(*1)パッドについて

この取扱説明書では、本機に接続できるパッドの品番を掲載していますが、これらは本書制作時点での最新品番です。その後発売された最新品番については、下記のウェブサイトでご確認いただけますよう、お願いいたします。

<http://download.yamaha.com/jp/>

※ウェブサイトのURLは予告無く変更することがあります。

[FOOT SW] 端子に接続

別売品	主な用途								
<p>ペダル</p>  <p>→ 54ページ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 機能を切り替える ● トリガー音色を鳴らす <p>用途に合わせて適切なペダルを選んでください。</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="821 533 1133 716"> <ul style="list-style-type: none"> ・ オンとオフの切り替え <p>FC4 </p> </td> <td data-bbox="1133 533 1445 716"> <p>FC5 </p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="821 716 1445 907"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 量の調節(ペダルを放してもそのまま保持) <p>FC7 </p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="821 907 1445 1131"> <ul style="list-style-type: none"> ・ オンとオフの切り替え ・ トリガー音色を鳴らす <p>HH65 </p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="821 1131 1445 1411"> <ul style="list-style-type: none"> ・ オンとオフの切り替え ・ 量の調節(ペダルを放すと元に戻る) ・ トリガー音色を鳴らす <p>FC3 </p> </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> ・ オンとオフの切り替え <p>FC4 </p>	<p>FC5 </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 量の調節(ペダルを放してもそのまま保持) <p>FC7 </p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ オンとオフの切り替え ・ トリガー音色を鳴らす <p>HH65 </p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ オンとオフの切り替え ・ 量の調節(ペダルを放すと元に戻る) ・ トリガー音色を鳴らす <p>FC3 </p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ オンとオフの切り替え <p>FC4 </p>	<p>FC5 </p>								
<ul style="list-style-type: none"> ・ 量の調節(ペダルを放してもそのまま保持) <p>FC7 </p>									
<ul style="list-style-type: none"> ・ オンとオフの切り替え ・ トリガー音色を鳴らす <p>HH65 </p>									
<ul style="list-style-type: none"> ・ オンとオフの切り替え ・ 量の調節(ペダルを放すと元に戻る) ・ トリガー音色を鳴らす <p>FC3 </p>									

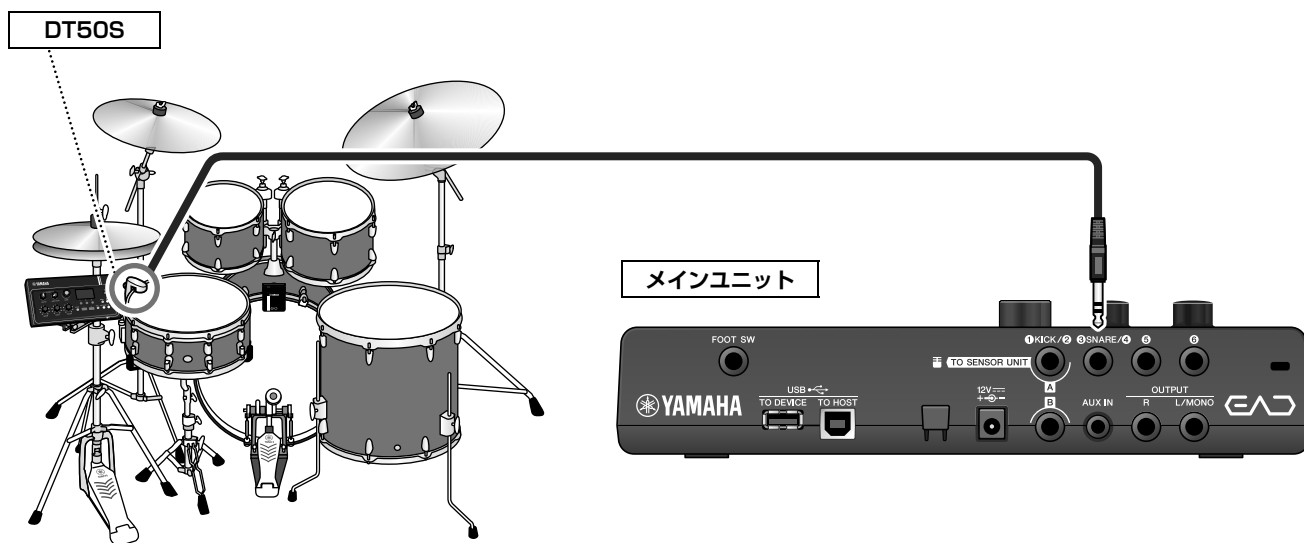
NOTE

- ・ 本書では、FC3AなどのFC3相当品とFC3をまとめてFC3と記載します。
- ・ 本書では、FC4AなどのFC4相当品とFC4をまとめてFC4と記載します。

■ アコースティックドラムの音にトリガー音色を連動させる (ドラムトリガーを取り付ける)

スネアドラムなどにドラムトリガー (別売) を取り付け、メインユニットと接続すると、叩いたドラムのタイミングや強さに応じてトリガー音色を鳴らすことができます。たとえば、内蔵のドラム音色を重ねることで音を補強したり、パーカッションなど他の楽器の音色や効果音などを重ねたりといった使いかたができます。

ドラムトリガー接続例



● 手順： 例) ドラムトリガー DT50Sの場合

1. メインユニットの電源を切ります。

接続する前に、メインユニットの電源が切れていることを確認します。



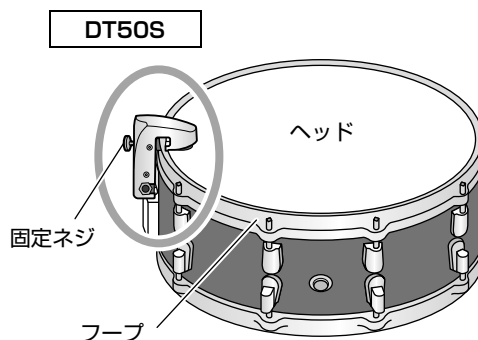
すべて消灯

2. スネアドラムなどの2本のテンションボルトの間にDT50Sを取り付けます。

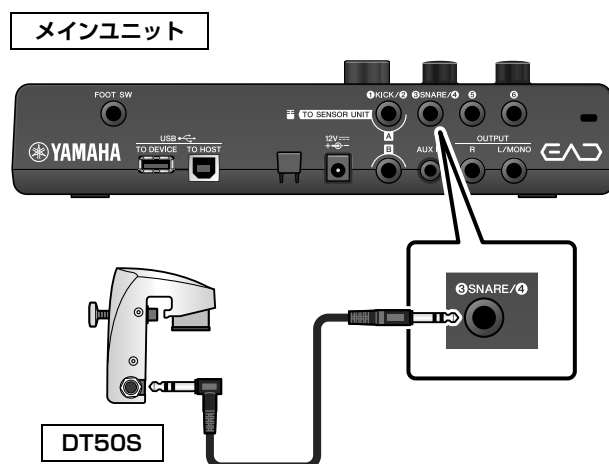
NOTE

ドラムトリガーを叩いてしまわないように、演奏者からなるべく離れた位置に取り付けてください。

詳しくはDT50S取扱説明書をご参照ください。



3. DT50Sをメインユニットのリアパネルの [③SNARE/④]端子に接続します。



4. [MENU] ボタンを押して初期設定をします。

[③SNARE/④]端子にDT50Sを接続すると、設定を変えずにそのまま使用できます。その他のドラムトリガーを接続する場合は以下の設定を行ないます。



- **接続するトリガーを指定する**

パッドタイプから接続するパッドを選びます。詳しくはリファレンスマニュアル(詳細編)(PDF)をご参照ください。(MENU/Trigger/Pad Type)

- **接続したトリガーで何をするかを指定する**

トリガー音色を鳴らす(35ページ)

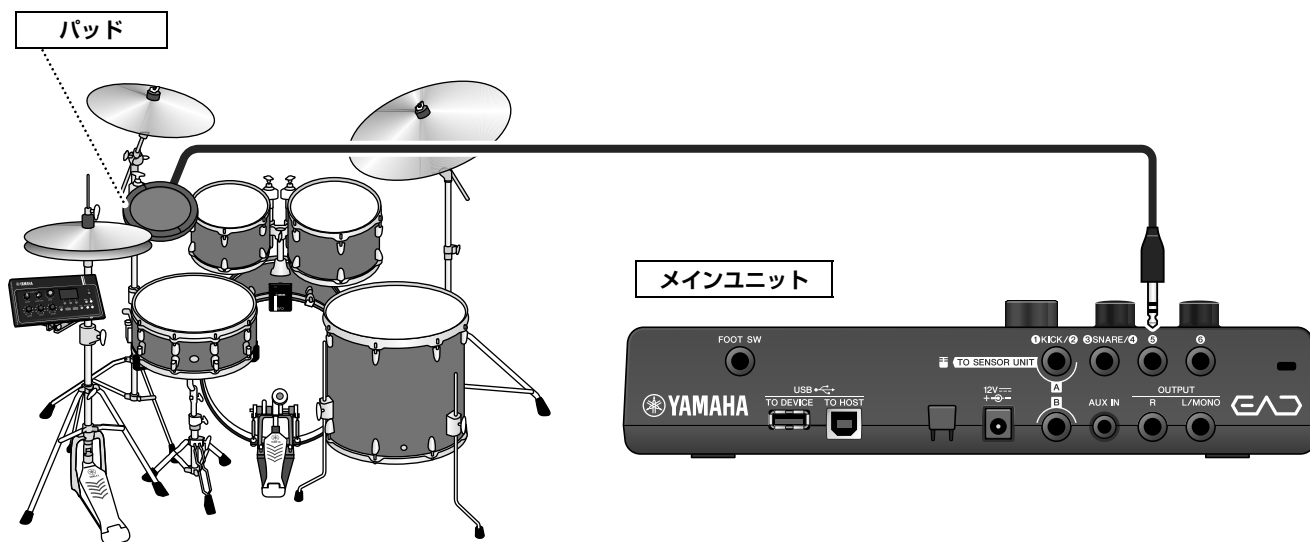
以上で設定が終わりました。

別売品でドラムセットの機能を拡張する

■ 電子ドラムのパッドで音を鳴らす、機能をコントロールする (パッドを増設する)

メインユニットにパッド(別売)を接続すると、パッドを叩くことでドラムやパーカッションなどの音を鳴らしたり、機能をコントロールしたりできます。

パッド接続例



● 手順： 例)TP70Sの場合

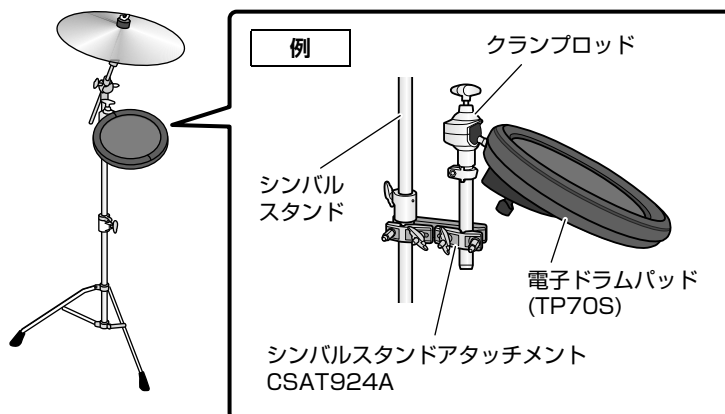
1. メインユニットの電源を切ります。

接続する前に、メインユニットの電源が切れていることを確認します。

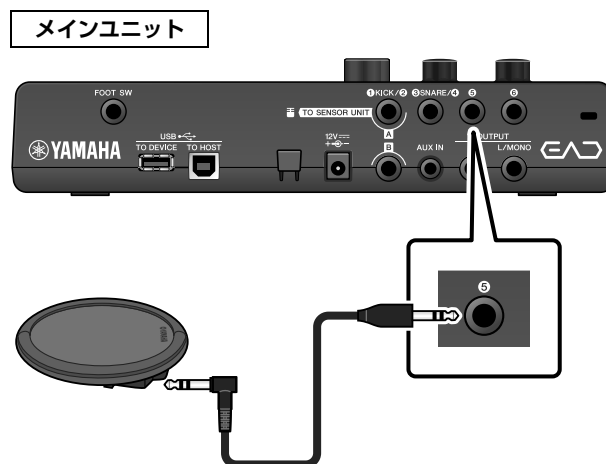


すべて消灯

2. パッドを設置します。



3. TP70Sをメインユニットのリアパネルの[5]端子または[6]端子に接続します。



4. メインユニットの電源を入れます。



5. [MENU] ボタンを押して初期設定をします。

[5]端子または[6]端子にTP70Sを接続すると、設定を変えずにそのまま使用できます。その他のパッドを接続する場合は以下の設定を行ないます。



• 接続するパッドを指定する

パッドタイプから接続するパッドを選びます。詳しくはリファレンスマニュアル(詳細編)(PDF)をご参照ください。(MENU/Trigger/Pad Type)

• 接続したパッドで何をするかを指定する

- トリガー音色を鳴らす(35ページ)
- 機能を切り替える
(リファレンスマニュアル(詳細編)(PDF))
(MENU/Utility/PadFunction)

以上で設定が終わりました。

別売品でドラムセットの機能を拡張する

■ ペダルで音を鳴らす、機能をコントロールする(ペダルを接続する)

[FOOT SW]端子にペダルを接続して、さまざまな使いかたができます。

● 手順： 例)HH65の場合

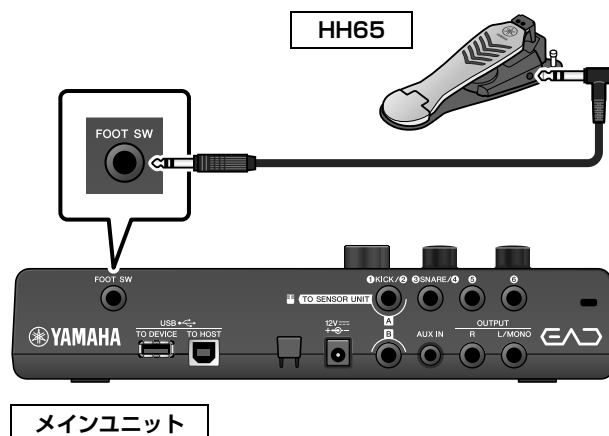
1. メインユニットの電源を切ります。

接続する前に、メインユニットの電源が切れていることを確認します。



2. ペダルのプラグをメインユニットの[FOOT SW]端子に接続します。

HH65に付属されているケーブルの一方のプラグを、HH65の[OUTPUT]端子に差し込みます。



3. メインユニットの電源を入れます。



4. [MENU] ボタンを押して初期設定をします。

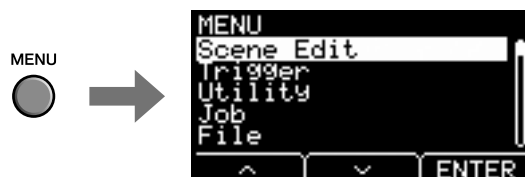
HH65を接続すると、設定を変えずにそのまま使用できます。その他のペダルを接続する場合は以下の設定を行ないます。

● 接続するペダルの種類を指定する

MENU/Trigger/FootSwSelectで接続するペダルを選びます。

● 接続したペダルで何をするかを指定する

- ・ ペダルで何をするかを指定する (MENU/Utility/PadFunction)
- ・ (音を出す場合)トリガー音色を選ぶ(35ページ)



以上で設定が終わりました。

メニュー一覧

MENU

- Scene Edit
 - Inst
 - Category インストのカテゴリ
 - InstNumber インスト番号
 - InstTune インストのチューニング
 - InstDecay インストのディケイ
 - InstPan インストのパン(定位)
 - Voice
 - Category ボイスのカテゴリ
 - VoiceNumber ボイス番号
 - VoiceTune ボイスのチューニング
 - VoiceDecay ボイスのディケイ
 - VoicePan ボイスのパン(定位)
 - VoiceFilter ボイスのフィルターカットオフ周波数
 - VoiceQ ボイスのQ(フィルターレゾナンス)
 - VoiceAltGrp ボイスのオルタネートグループ
 - VoiceHoldMode ボイス発音の設定
 - MessageType MIDIメッセージタイプの選択
 - Effect
 - ReverbType リバースタイプ
 - ReverbSend リバースセンド
 - RevReturn リバースリターン
 - Mic RevSend マイク音のリバースセンド
 - TriggerRevSend トリガー音色のリバースセンド
 - Voice RevSend トリガー音色のボイスのリバースセンド
 - MicEffType マイク音のエフェクトタイプ
 - MicEffDepth マイク音のエフェクトデプス
 - TrgEffType トリガー音色エフェクトのタイプ
 - TrgEffSend トリガー音色エフェクトへのセンドとドライのバランス
 - TrgEffReturn トリガー音色エフェクトへのリターン
 - TrgEffToRev トリガー音色エフェクトからリバースへのセンド
 - Volume
 - Scene Volume シーン全体の音量
 - Mic Volume マイク音の音量
 - TriggerVolume トリガー音色全体の音量
 - Inst Volume トリガー音色のインストの音量
 - Voice Volume トリガー音色のボイスの音量
 - Tempo シーン選択時のテンポ

MENU	
Trigger	
Input Mode	
Trg1/Trg2	トリガー1/トリガー2 入力モード
Trg3/Trg4	トリガー3/トリガー4 入力モード
Curve	
Velocity Curve	ベロシティーカーブ
Pad Type	
PadType	パッドタイプの選択
Gain	ゲイン
Sensitivity	センシティブィティー
RejectTime	リジェクトタイム
MinLevel	最小レベル
MaxLevel	最大レベル
MinVelocity	最小ベロシティー
MaxVelocity	最大ベロシティー
WaitTime	ウェイトタイム
RimGain	リムゲイン
H/R Balance	H/R バランス
Crosstalk	
All Reject Lvl	オールリジェクトンレベル
Reject Lvl	リジェクトンレベル (発生源パッド)
FootSwSelect	フットスイッチ選択
Utility	
General	
SceneKnob	シーンノブ
AutoPowerOff	オートパワーオフ
LCD Contrast	LCDコントラスト
ClickOutput	クリック音の出力先
ClickCountOff	クリックカウントオフ
L&R Volume	外部出力の音量
MicNoiseGate	マイクノイズゲート
AudioOutGain	オーディオアウトゲイン
AudioMix	オーディオミックス
USB To Host	[USB TO HOST]端子の設定
MIDI LocalCtrl	MIDIローカルコントロール
AuxInVolume	AUX INの音量
USB Volume	USBオーディオまたはレコーダー再生の音量
ClickVolume	クリックの音量
PadFunction	
PadFunction	パッドファンクション
BypassSw	バイパススイッチ
Phones EQ	
EQ LowGain	EQ ローゲイン
EQ HighGain	EQ ハイゲイン

MENU


- Job
 - Scene
 - Recallリコール
 - Sortソート
 - Exchangeエクスチェンジ
 - Clearクリア
 - Wave
 - Import選択したオーディオファイルの取り込み
 - Import All全オーディオファイルの取り込み
 - Delete選択したウェーブの削除
 - Delete All全ウェーブの削除
 - Optimizeメモリーの最適化 (オブティマイズ)
 - Memory Infoメモリーインフォメーション
 - Recorder
 - Export Audioエクスポートオーディオ
- File
 - Saveファイルのセーブ (保存)
 - Loadファイルのロード (読み込み)
 - Renameファイル名のリネーム (変更)
 - Deleteファイルのデリート (削除)
 - FormatUSB フラッシュメモリーのフォーマット (初期化)
 - Memory InfoUSB フラッシュメモリーインフォメーション
- Factory Resetファクトリーリセット

困ったときは

現象	考えられる原因	対策	参照ページ
音が出ない	電源が入っていない	電源がオンになっているか確認してください。	25ページ
	音量が上がっていない	[MASTER VOLUME]ノブを確認してください。	13ページ
	ケーブルが正しく接続されていない または ケーブルが切れている	センサーユニットとメインユニットが、ステレオフォンケーブルで正しく接続されているか確認してください。	17ページ
		お使いのケーブルに不良はないか確認してください。	
		ヘッドフォンやアンプ/スピーカーなどの外部機器がメインユニットと正しく接続されているか確認してください。	
音量設定が正しくない	[MASTER VOLUME]ノブを確認してください。 外部機器の電源、ボリュームなども確認してください。	13ページ	
音量バランスが悪い			
マイク音とトリガー音色の音量バランスが悪い		トリガー音色の音量を調節します。それでも直らないときはマイクのゲインを調節してください。	34ページ 28ページ
AUX INと自分の演奏音の音量バランスが悪い		外部入力の音量を調節してください。 [AUDIO/CLICK VOLUME]ノブを調節してください。	13ページ
USBフラッシュメモリーからの再生音と自分の演奏音のバランスが悪い		[AUDIO/CLICK VOLUME]ノブを調節してください。	13ページ
シンバルの音が遠い/特定のドラムの音が小さい		センサーユニットから遠くに設置すると音が小さくなる場合があります。ドラムセットの位置を確認してください。	17ページ
バスドラムのトリガー音色が鳴らない	トリガー設定が適切でない	センサーユニット設定を設定しなおしてください。	27ページ
	正しく設置されていない	センサーユニットがフープへ正しく固定されているか確認してください。	17ページ

現象	考えられる原因	対策	参照ページ
効果がわかりづらい	リバーブ/エフェクトのかかり具合 やトリガー音色の音量が不十分	[REVERB]ノブ、[EFFECT]ノブ、 [TRIGGER]ノブを右へ回して、効果 のかかり具合や音量を調節してくださ い。	33ページ
	マイクゲインが十分上がっていない トリガー設定が適切でない	センサーユニット設定を設定しなおし てください。	27ページ
	使用しているヘッドフォンの音量が 小さい	高効率かつ密閉型のヘッドフォンまた はイヤフォンをお使いください。	23ページ
ノイズが発生する	マイクからノイズが入る	センサーユニット付近でケーブルが動 かないように付属のケーブルバンドな どで固定してください。	17ページ
		センサーユニットがフープへ正しく固 定されているか確認してください。	
		メインユニットに接続されたB端子側 のケーブル(マイク入力ケーブル)が 動かないように付属のケーブルバンド などで固定してください。	
二度鳴りする	ダブルトリガーが起こっている	センサーユニットがフープへ正しく固 定されているか確認してください。	17ページ
		バスドラムの音の長さが長いほど、ダ ブルトリガーが起こりやすくなりま す。 ドラムの音が短くなるように調整し てください。ミュート調整/ヘッドの チューニング/ヘッド交換などをお試 しくください。	
増設したパッドから音が出ない または 音が出にくい		パッドタイプの設定が適切か確認し てください。	リファレンス マニュアル (詳細編)(PDF)
叩いていないのに音が出る 叩いたドラム以外の音が鳴る	クロストークが起こっている	トリガー音色の最小レベル設定値を上 げてください。ただし、上げ過ぎると 弱打のときに音が鳴らなくなります。 お好みで調整してください。	33ページ リファレンス マニュアル (詳細編)(PDF)
	バスドラムのトリガー音色にクロス トークが起こっている	センサーユニット設定を設定しなおし てください。トリガーセンス設定を確 認してください。	27ページ
		スネアドラムを叩いたときにバスドラ ムの音が鳴ってしまうような場合は、 センサーユニットからスネアドラムを 離して設置してください。離して設置 すると改善される場合があります。	17ページ

困ったときは

現象	考えられる原因	対策	参照ページ
音がひずむ	マイクゲインを上げすぎている	[ (センサーユニット)ボタンを押してマイクセンサーの設定を調節してください。	27ページ
	マスターボリュームを上げすぎている	[MASTER VOLUME]ノブを左へ回してください。	13ページ
	エフェクトがかかっている	ディストーションなどのエフェクトの設定を調節してください。	13ページ
本体に録音できない USBフラッシュメモリーに録音できない	AUX INの音が録音できない	自分の演奏音とAUX IN経由で再生される音は同時に録音できない仕様です。 AUX INの音は事前に本体に録音しておけば、自分の演奏を重ねて録音できます。	41ページ
	クリックが録音できない	クリックは録音されない仕様です。	
	USBフラッシュメモリーの空き容量が不足している	USBフラッシュメモリーの空き容量を確認してください。	
	USBフラッシュメモリーにプロテクトがかかっている	USBフラッシュメモリーのプロテクトを解除してください。	
USBフラッシュメモリーに録音したファイルを本体で再生するときの音量が小さい		録音するときの音量を適切なレベルに調節してください。 再生時は[AUDIO/CLICK VOLUME]ノブを調節してください。	録音： リファレンス マニュアル (詳細編)(PDF) 再生：13ページ
USBフラッシュメモリー内のファイルが本体で再生できない または 再生が途中で止まる	ファイルフォーマットが対応していない	ファイルフォーマットやサンプリング周波数を確認してください。	63ページ
	USBフラッシュメモリーの性能が不足している	4GB以上のUSBフラッシュメモリーをおすすめします。詳しくは「USBデバイス動作確認済みリスト」(PDF)をご参照ください。	*1
電源が切れる	オートパワーオフ(自動電源オフ機能)が設定されている	オートパワーオフを解除してください。	29ページ
電源が入らない	電源アダプターが接続されていない	電源アダプターが接続されているか確認してください。	22ページ
設定を変えたシーンが消えてしまった	ストアをしないで、シーンを切り替えた	リコール機能を使って編集中のシーンを呼び戻してください。	34ページ

*1 ウェブサイト(<http://download.yamaha.com/jp/>)でご確認ください。

※ウェブサイトのURLは予告無く変更することがあります。

メッセージ一覧

メッセージ	説明
Are you sure?	各操作を実行したときの、確認を求める表示です。
Auto power off disabled.	[STORE] ボタンを押しながら電源を入れることによって、オートパワーオフ機能が解除されたときに表示されます。
Backup error.	フラッシュ ROM へのデータ書き込みに失敗したときに表示されます。電源オフ時にデータを正しく保存できなかった場合、次回の電源オン時に表示されます。エラーメッセージが表示されたあと、自動的にファクトリーリセットが実行されます。
Cancel AUX IN recording?	レコーダーで[AUX IN]端子からの録音状態の時にSOURCE ボタンを押すと表示されます。この画面で[YES]を押すと通常のレコーダーに戻ります。
Canceled.	キャンセル処理が完了したときに表示されます。
Can't use RECORDER now.	USB To Host で Audio を使用しているためレコーダーを使えません。USB To Host 設定をご確認ください。
Completed.	シーンのストア、ファイルのロード/セーブ、ジョブなどの実行が完了したときに表示されます。
Connecting USB device...	USB デバイスを接続中です。
Excessive demand for USB power.	USB デバイスの消費電力が規定値を超えています。
Factory Reset initializing...	起動時にファクトリーリセットを行なった場合に表示されます。
File already exists.	同じ名前のファイルがすでに存在しています。
File not found.	選択したタイプのファイルがありません。
Illegal file.	ロードのとき、目的のファイルが本体では扱えない場合や本体がサポートしていないオーディオファイルを扱おうとした場合に表示されます。
Incompatible USB device.	本体では使用できないUSB機器が[USB TO DEVICE]端子に接続されると表示されます。
Invalid USB device.	USB デバイスが不良です。フォーマットを実行してやりなおしてください。
No data.	レコーダー、ウェーブに関するジョブ実行時に、対象となるデータが存在しない場合に表示されます。
No response from USB device.	USB デバイスから応答がありません。
Now importing...	ウェーブのインポート中に表示されます。
Now loading...	ファイルロード中に表示されます。
Now processing...	シーンのストアやジョブの実行中に表示されます。ファイルのロード/セーブ実行を中止したときの、後処理実行中に表示されます。
Now saving...	ファイルセーブ中に表示されます。
Now switching audio driver.	[USB TO HOST]端子がコンピューターなどに接続されている状態で以下の操作を行なった場合に表示されます。 USB To Host 設定をMIDIまたはMIDI+Audioに切り替えたとき。 USB To Host 設定がautoでレコーダー画面入退場時。
Overwrite?	ファイルをセーブするとき、USB デバイス内に同名のファイルがある場合に表示されます。 以前ストアしたことのあるユーザーシーンに再度ストアを実行しようとした場合に表示されます。

メッセージ一覧

メッセージ	説明
Please stop recorder.	レコーダーで再生または録音中に、レコーダーを抜ける操作をしたときに表示されます。レコーダーを停止してから操作してください。
Recording time limit exceeded.	レコーダーで録音制限時間に到達した場合に表示されます。内蔵メモリー使用時は約1分30秒、USBフラッシュメモリー使用時は30分です。
Read only file.	読み取り専用のファイルを選択しファイル操作を実行すると表示されます。
Sample is too long.	サンプルが長すぎて読み込めません。
Sample is too short.	サンプルが短すぎて読み込めません。
Switch to AUX IN recording?	レコーダーで、SOURCEボタンを押すと表示されます。この画面で[YES]ボタンを押すと、[AUX IN]端子からの録音に切り替えます。
USB connection terminated.	USBデバイスに異常な電流が流れたので接続を遮断しました。接続しているUSBデバイスを外したうえで[OK]ボタンを押してください。
USB device's transfer speed too slow.	USBデバイスへの転送スピードが間に合わなかった時に表示されます。なお、当社にて動作確認を実施した各種デバイスについては、ヤマハサイト「USBデバイス動作確認済みリスト」 ^(*) をご参照ください。
USB device full.	USBデバイスの容量がいっぱいでファイルがセーブできないときに表示されます。新しいUSBデバイスを用意するか、不要なファイルを消去してから操作をやりなおしてください。
USB device not ready.	USBデバイスが本体に正しくセットされていない場合に表示されます。
USB device read/write error.	USBデバイスへのリード/ライト中にエラーが発生しました。
USB device write protected.	USBデバイスが書き込み禁止状態になっている場合に表示されます。
USB transmission error.	USBデバイスとの通信中にエラーが発生しました。
Wave memory full.	ウェーブ用のメモリーがいっぱいで、インポートやジョブ、ロードなどが実行できない場合に表示されます。

*1 ウェブサイト(<http://download.yamaha.com/jp/>)でご確認ください。

※ウェブサイトのURLは予告無く変更することがあります。

仕様

メインユニット

音源部	シーン数	プリセット：50 ユーザー：200	
	リバーブタイプ数	11	
	エフェクトタイプ数	マイク：21、トリガー：10	
	トリガー音色	音源方式	AWM2
		最大同時発音数	64
	ボイス数	757	
レコーダー	録音時間	内蔵メモリー	約1分30秒
		USBフラッシュメモリー	約30分/ファイル
	フォーマット	録音/再生	WAV(44.1kHz、16bit、ステレオ)
ウェーブ	読み込み可能ウェーブ数	最大100	
	再生サンプリングレート	44.1kHz	
	ウェーブメモリー	32MB	
	読み込み可能最大サンプルサイズ	1モノサンプル	1.75MB
		1ステレオサンプル	3.5MB
サンプルフォーマット		WAV(16bit)	
クリック	テンポ	30～300BPM、タップテンポ機能	
	ビート(拍子)	1/4～16/4、1/8～16/8、1/16～16/16	
	タイミング	アクセント、4分音符、8分音符、16分音符、8分3連符	
その他機能		トリガー感度調節、USBオーディオ/MIDI、ヘッドフォンEQ	
操作子	ディスプレイ	フルドットLCD(128×64ドット)	
	操作子	ノブ	MASTER VOLUME、AUDIO/CLICK VOLUME、SCENE、REVERB、EFFECT、TRIGGER
		ボタン	MENU、センサーユニット、クリック、RECORDER、EXIT、STORE、ファンクション1～3、－、＋、スタンバイ/オン
接続端子	電源	DC IN(12V)	
	ヘッドフォン	PHONES(ステレオ標準フォンジャック)	
	外部入力	AUX IN(ステレオミニジャック)	
	外部出力	OUTPUT L/MONO, R (標準フォンジャック)	
	USB		USB TO DEVICE
			USB TO HOST
	センサー入力	トリガーセンサー用	A (ステレオ標準フォンジャック)
		マイクセンサー用	B (ステレオ標準フォンジャック)
	トリガー入力	ステレオ(L:トリガー、R:トリガー)	①KICK/②(Aと兼ねる)、③SNARE/④ (ステレオ標準フォンジャック)
		3ゾーン(L:トリガー、R:リムスイッチ)	⑤、⑥ (ステレオ標準フォンジャック)
ペダル		FOOT SW(ステレオ標準フォンジャック)	
電源	電源	PA-150B(またはヤマハ推奨の同等品)	
	消費電力	10W(電源アダプター PA-150B使用時)	
	オートパワーオフ	○	
サイズ/質量	寸法	幅×奥行き×高さ 260(W) × 138(D) × 63(H) mm	
	質量	メインユニットのみ 654 g	

センサーユニット

センシング方式	マイク	高耐音圧マイク×2
	トリガー	バスドラム専用×1
接続端子	センサー出力	トリガーセンサー用 A(標準フォンジャック)
		マイクセンサー用 B(ステレオ標準フォンジャック)
サイズ/質量	寸法	幅×奥行き×高さ 76(W) × 78(D) × 88(H) mm
	質量	センサーユニットのみ 464 g

その他

付属品	取扱説明書(本書)、保証書、電源アダプター(PA-150B)、モジュールホルダー、モジュールホルダー用蝶ボルト(2個)、接続ケーブル(1組)、ケーブルバンド(3本)、クッション材シール(2枚)
別売品	・シンバルスタンドアタッチメント(CSAT924A) ・その他の別売品についてはウェブサイト(http://download.yamaha.com/jp/)でご確認ください。

*本書は、発行時点での最新仕様で説明しています。最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。

索引

Symbols

[](クリック)ボタン	13
[](スタンバイ/オン)スイッチ	13
[](センサーユニット)ボタン	13, 27
[-]ボタン、[+]ボタン	13

数字

[KICK/]	16
[SNARE/]	16
[]	16
[]	16

A

[AUDIO/CLICK VOLUME] (オーディオ/クリックボリューム)ノブ	13
[AUX IN](外部入力)端子	14
A端子	15

B

BYPASS	35
B端子	15

D

DAWソフトウェア	47
DC IN端子	14

E

[EFFECT](エフェクト)ノブ	13
[EXIT](エグジット)ボタン	13
Eマーク	33

F

[F1]、[F2]、[F3]	13
[FOOT SW]端子	14

I

iPhone/iPad	47
-------------	----

L

[L](マイクゲイン左)	28
--------------	----

M

[MASTER VOLUME] (マスターボリューム)ノブ	13
[MENU](メニュー)ボタン	13
MIC	27

O

OUTPUT [R]/[L/MONO](外部出力)端子	14
-----------------------------	----

P

PAシステム	24
[PHONES](ヘッドフォン)端子	15

R

[R](マイクゲイン右)	28
[RECORDER](レコーダー)ボタン	13
[REVERB](リバーブ)ノブ	13

S

[SCENE](シーン)ノブ	13
[STORE](ストア)ボタン	13, 37

T

[TO SENSOR UNIT A](センサーユニット用A)端子	14
[TO SENSOR UNIT B](センサーユニット用B)端子	14
TRG	27
TRG SENS (トリガーセンス)	28
[TRIGGER](トリガー)ノブ	13

U

[USB TO DEVICE]端子	14, 30
[USB TO HOST]端子	14, 25
USBフラッシュメモリー	30, 42

W

.wav	37
------	----

Y

Y字ケーブル	16
--------	----

ア

ウェーブ	37
ウッドフープ	18
液晶ディスプレイ(表示画面)	13
エフェクト	11, 32
オーディオ信号	11
オーディオファイル	37, 44
オートパワーオフ(自動電源オフ)	29

カ

外部入力録音	43
外部の音色	37
クッション材シール	9
クリック	39
ケーブルバンド	9
携帯用音楽プレーヤー	24
ゲイン	27
コードフック	14
固定ネジ	15
コンピューター	25, 47

サ

シーン	32
シーン画面	33
自動設定	27
ストア	33, 37
接続ケーブル	9
センサーユニット	10, 15, 27

タ

タップテンポ	39
ツェバスセッティング	17
電源	25
電源アダプター	9, 22
テンポ	39
トップパネル	13
ドラムセット	17
ドラムトリガー	48, 50
トリガー音色	32
トリガーゲイン	27
トリガー信号	11
トリガーセンサー	15
トリガー入力端子	14, 16

ナ

内蔵音色	11
入力ソース	43

ハ

バイパス	35
バックング	44
パッド	48, 52
伴奏	44
フープ	18
ファクトリーリセット	30
ファンクション1～3ボタン	13
プリセットシーン	34
フロントパネル	15
ペダル	49, 54
ヘッドフォン	23
別売品	48

マ

マイク音	11
マイクゲイン	27
マイクセンサー	15
メインユニット	10, 13
メタルフープ	18
メトロノーム	39
モジュールホルダー	9, 20
モジュールホルダー用蝶ボルト	9

ヤ

ユーザーシーン	34
---------	----

ラ

リアパネル	14
リバーブ	11, 32

■保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

●保証書

本機には保証書がついています。
保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

●保証期間

保証書をご覧ください。

●保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

有寿命部品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗劣化に応じて部品の交換が必要となります。有寿命部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

有寿命部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、ドラムパットなど

●補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

●持込み修理のお願い

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りの修理品お持ち込み窓口へ本機をご持参ください。

●製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

◆修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター

●ナビダイヤル
(全国共通番号)



0570-012-808

※固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は TEL 053-460-4830 へおかけください。

●受付：月曜日～金曜日 10:00～17:00 (土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

●FAX：東日本(北海道/東北/関東/甲信越/東海) 03-5762-2125
西日本(北陸/近畿/中国/四国/九州/沖縄) 06-6649-9340

◆修理品お持ち込み窓口

●受付：月曜日～金曜日 10:00～17:00 (土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

*お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター

〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1 京浜トラックターミナル内14号棟A-5F FAX 03-5762-2125

西日本サービスセンター

〒556-0011 大阪市浪速区難波中1丁目13-17 ナンバ辻本ニッセイビル7F FAX 06-6649-9340

*名称、住所、電話番号、営業時間などは変更になる場合があります。

MEMO

Manual Development Group
© 2017 Yamaha Corporation

2017年6月 発行 POHD*-*-**A0
Printed in China

ZW64670